

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 7 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3873300291
事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	宮本 美和(古川 真奈美)
自己評価作成日	令和 4 年 6 月 30 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 私たちは優しい介護の提供を目指します。                  2. 温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。                  3. 常にご利用者の立場になることを忘れません。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①一人ひとりの尊厳を大切にしながら日々のケアの支援が出来るように取り組む                  ②家族様の参加が増えるような行事に取り組み交流が増えるようにする</p> <p>【結果】</p> <p>①月1回のミーティング時に研修を行ったり、話し合いながら日々のケアが出来ている                  ②コロナウイルス感染予防対策があり、面会禁止や行事回数が減ったこともあり施設内だけで行っており未達成。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>平屋建ての事業所は、幹線道路の近くにある母体医院に隣接して、立地している。敷地内の中庭には緑の木々も多く植えられ、夏にはツバメが飛び交うなど、利用者は自由に中庭に出て、季節を感じる事ができる。コロナ禍において、事業所には面会制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、対応を調整しており、個室での面会を可能としている時期もあり、利用者や家族に喜ばれている。また、職員は利用者の希望を聞きながら、各ユニットで身体を動かすレクリエーションを取り入れるなど、日々利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。さらに、個別の生活機能向上計画書を作成して、作業療法士の助言や評価をもとに、日常生活動作の中に歩行訓練などのリハビリを取り入れたり、脳トレに取り組んだりするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。加えて、事業所では、利用者に洗濯物干しやたみ、掃除などの役割を担ってもらうとともに、職員は意識しながら、継続して利用者の人権や尊厳を大切に支援に努めている。</p>
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時の情報や日々の会話の中で本人の希望を聞くようにしている。	○	/	○	入居前に、職員は家族や利用者から、思いや暮らし方の希望などを聞いている。また、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を知ることが多く、アセスメントシートや毎日の記録に記載している。さらに、自分で意思を伝えることが難しい利用者には、職員が声かけを工夫するとともに、表情やしぐさから思いを汲み取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	表情や動作から見極めたり、職員間で話し合うよう努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会に来られた時に話を聞いている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	言葉や気付きを記録ノートに記入するようにしているが思いの整理は不十分。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	月1回のミーティングで振り返りの作業をしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	主に利用開始時にキーパーソンから話を聞くようにし、それ以後は機会があればできるだけ話を聞くように努めている。	/	/	○	入居時に、フェイスシートやアセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や性格、これまでの暮らし、現状などを聞いている。また、入居前に利用していた介護サービス事業所や居宅介護支援事業所等の関係者から、情報収集をしている。さらに、入居後、日々の関わりの中で、職員は新たな情報を知ることが多く、把握した内容はアセスメントシート等に記録して、職員間の情報共有に努めている。加えて、6か月に1回、介護計画の更新に合わせて、アセスメントシートの情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)の現状の把握に努めている。	◎	申し送りノートや観察記録に記入し情報共有し、現状を把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	観察記録は24時間シートを活用し、申し送りで情報共有し把握するようになっている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々は出勤した職員で話すようにし、毎月のミーティングでも話し合うように、他職種間でも話をしている。	/	/	○	把握した情報をもとに、「利用者にとって必要なサービスは何か」などを、計画作成担当者や職員、家族、医療関係者等を交えて、利用者の視点に立て、話し合いをしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	ミーティングで各職員のモニタリングの内容を確認し、今現在各利用者について何が課題なのかを話し合っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	アセスメントを元に行えるだけ本人らしさが反映するような計画になっていると思う。	/	/	/	コロナ禍において、外部の関係者の参加した担当者会議等が開催できないため、事前に職員は利用者や家族から、思いや意向などを聞くほか、書面で確認をしている。また、医師やリハビリ担当者から、意見や指示をもらっている。さらに、把握した情報と、事前に聞いた意見等を踏まえて、月1回実施するミーティングを活用して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に、介護計画を作成している。加えて、利用者や家族から出された意見が反映された介護計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族の意向をできるだけ聞き取り、またリハビリ担当者の意見も聞きながらいろんな意見を反映させて作成していると思う。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	以前と同じような暮らし方は難しいが今のその方の状態に応じた内容になっていると思う。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力も少しではあるがプランに盛り込まれている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	月1回のミーティングで話し合い職員間で共有している。	/	/	◎	事業所では、ミーティングを活用して介護計画の内容を話し合うとともに、日々の支援経過記録の様式に、介護計画の内容が転記され、職員は計画やサービス内容を確認しながら、計画に沿ったサービスの実施記録を分かりやすく記載できるようになっている。また、月1回担当職員が、経過記録のサービスの実施の有無等を確認して、利用者の現状を確認している。さらに、サービス提供による利用者一人ひとりの状態の変化を数値化して評価するとともに、詳細な評価結果を記録に残すなど、職員はサービス内容を理解して、計画に沿ったケアが実践されている様子を確認することができた。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	観察記録を基に毎月支援内容の評価を行っている。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	ミーティングで話し合い、見直しするようにしている。	/	/	◎	介護計画は、短期目標等に合わせて、6か月に1回を基本として、見直しをしている。月1回実施するミーティングを活用して、担当職員がモニタリングを実施して、利用者一人ひとりの現状を確認するとともに、必要に応じて、職員間で話し合いをしている。また、利用者の状態に変化が見られた場合には、随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のミーティングで確認するようにしている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	大きな変化が生じた場合は家族や関係者と話し合い、現状に応じたプランを作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	毎月のミーティングや必要に応じて話し合っているが、緊急適が話し合いはできていない。	/	/	○	各ユニットで、毎日の申し送りを実施するほか、月1回ミーティングを開催して、職員間で情報共有や課題などの話し合いをしている。また、緊急案件のある場合には、内容によりその場にいる職員で話し合い、迅速な対応に努めている。さらに、参加できなかった職員には、後日ミーティングノートなどの会議録を確認してもらい、ユニットの全ての職員が情報共有できるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	いろいろな意見が出るよう個別で聞くようにしている。	/	/	◎	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	勤務時間内で話し合える時間帯を選び、日時も都合を聞きながら調整している。参加できない時は記録で確認している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝夕の申し送りを必ず行い情報を伝えるようにしている。また、申し送りノートに記載し各自確認したらサインをして、情報共有している。	○	/	○	日々の朝夕の申し送りを口頭で実施している。また、職員は出勤時に申し送りノート等を確認し、確認後にはサインを残して、確実な情報共有に努めている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	個別に声掛けを行い、したいことを聞くようにしている。	/	/	/	日々のレクリエーションの内容や食べたいおやつなど、職員は利用者から希望を聞くとともに、意識した声かけをして、自己決定してもらえよう努めている。時には、利用者から出されたリクエスト等に応じて、職員と一緒に、おはぎや寒天ゼリー、お好み焼きなどを手づくりすることもあり、利用者には喜ばれている。また、事業所便りには、中庭で草花の手入れを楽しんだり、中庭を眺めながら、ウッドデッキでカレーを食べたりする利用者の様子を確認することができるなど、職員は利用者の楽しみや生き生きとした表情を引き出す支援に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	自己決定できるような声かけを行っている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個々のベースに合わせた対応で支援している。	/	/	/	
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	レクなどの工夫やお手伝いなどの声掛けの工夫を行っている。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	△	表情を見極め、支援に努めているが不十分ではないかと思う。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	接遇の研修を内部で行い、振り返りをおこなうが常に意識出来るよう職員間で意識統一を図るように努めているが、十分ではないと思う。	○	○	○	年度当初に、事業所では接遇などの内部研修を実施して、職員は利用者の尊厳や人権を尊重した対応を学んでいる。対応には、職員により個人差が見られるものの、常に施設長等は利用者への対応に満足することなく、ミーティングで話し合うほか、ケアや対応の振り返りを重ねるなど、研鑽に努めている。また、新入職員が入った際には、職員間で意識した声かけを行うなど、より良い緊張感が生まれ、サービスの質の向上にも繋がっている。さらに、居室への入室時には、利用者の状況に応じて、ノックや声かけなどをして入室するとともに、利用者が不快に思わないような配慮をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	声掛けに工夫を行いながら、介助している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	声掛けやノックを行っているが不十分なところもある。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	△	職員の認識が低いため、ミーティングで理解できるように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	洗濯干しや洗濯たたみなどの日常生活の中での活動と一緒に、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を把握して、トラブルにならないように見守りや配慮などの考慮をしている。また、言い合いなどのトラブルが発生した場合には、早期に職員が間に入るなどの対応をしている。さらに、食事などの際に、他の利用者の世話をしたり、レクリエーション時に、号令や声かけなどのリーダーシップを発揮したりする利用者もおり、職員は利用者同士の助け合いや支え合いを見守っている。加えて、各ユニットには男性利用者が少なく、ペースを大切にしながら孤立しないように、職員は心がけて声かけをするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者間でトラブルもあるが、孤立しないようできるだけ配慮し、共に暮らせるように努めている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	孤立状態やトラブルにならないよう職員がそばで見守り、輪の中に入れるようにしている。トラブルになった時は職員が介入している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	様子を見ながら職員が介入し、その場で解決できるようにしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	×	家族以外は把握できていない。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	家族以外の方との交流が来ている利用者は居ない。また、現在コロナ感染予防対策により、外出禁止となっている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルス感染予防対策で今は外出できないが普段から外出の機会は少ない。中庭を利用し日光浴などしている。	△	×	○	コロナ禍以前は、日常的にスーパーへ食材の買い出しに行ったり、外出行事で季節の花を見に出かけたり、外食に出かけるなどの外出支援をすることができていた。現在のコロナ禍において、外出制限が設けられており、事業所では中庭に出て、外の空気に触れたり、季節を肌で感じてもらうことを大切に支援に努めている。また、希望をする利用者は、職員と一緒に散歩に出かけたり、中庭の思い思いの場所で過ごしてもらったり、一緒に歌を歌うなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう努めている。さらに、重度の利用者にも、屋外に出て、外気浴をしてもらうなど、気持ち良く過ごせるような支援にも努めている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	出来ない。家族以外の交流がない。外出は通院のみ。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	個々の認知症状は理解できており、状態の変化に応じて支援の内容を具体的に話し合うようにしている。	/	/	/	事業所では、利用者一人ひとりのできることやできそうなことの詳細なアセスメントを行うとともに、自分でできることはしてもらい、職員は手や口を出しすぎないような見守りや、できない部分のサポートをしている。また、個別の生活機能向上計画書を作成して、作業療法士の助言や評価をもとに、日常生活動作の中にリハビリを取り入れたりと、脳トレをしたりするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。さらに、訪問調査日には、中庭から廊下で歩行訓練をする利用者の様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	全員は出来ていないが、個別で日常生活の中での生活リハビリに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事はして頂き、出来ない事は一緒にしている。	/	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	脳トレや室内レクやお手伝いなどの役割の提供により、能力を維持したり引き出すよう努めている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、掃除など、日常的に事業所では、利用者の得意なことを活かした役割を担ってもらえるような支援に努めている。また、事業所便りには、中庭の芝生に座って草引きをする利用者の様子が見られ、車いすを使用している。継続して生き生きと自分の好きなことをしながら、生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	施設内では洗濯たたみや洗濯干し等、個々の能力に応じて出来る範囲で役割を持って頂き、出来るだけ張り合いのある日々が送れるよう支援している。施設外の仕事はできていない。	○	○	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	日頃から本人の好みを聞き、洋服選びを行っている。				食べこぼしの汚れや整容の乱れが見られた場合には、職員が利用者の羞恥心やプライドを傷つけないように、さりげなくフォローしたり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの配慮をしている。また、起床時には、着る服を自分で選び、お気に入りの髪型に整容するなど、好きなおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。さらに、状態に応じて、日中にベッド上で過ごすことが多い利用者があるものの、中にはパジャマから普段着に着替えてもらうなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	自分でできる方は見守りし、出来ない方は一緒に選ぶように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員間で話し合っ、本人の気持ちを考えながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出はできていないが、季節や本人の好みを把握し、その人らしい服装が出来るよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声掛けを行い、整容や更衣などの乱れを治せるように努めている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	コロナ以前から施設内での対応だけになっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	家族が持参された洋服など選び、いろんな服を着て本人らしさを出せるよう支援している。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の楽しさを理解して支援している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食器洗いや下膳、お盆拭きなど出来る利用者には手伝ってもらうようにしている。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	もやし根とりや食器洗い、テーブル拭きやお盆拭き等利用者の力の発揮できるように支援している。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前に本人や家族からの聞き取りで把握するようにしている。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音つかしいもの等を取り入れている。	○	栄養士の献立により調理している。季節感のある旬の食材なども取り入れられている。			◎			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々の状態に合った食形態や盛り付けに気を付けており、ミキサー食や刻み食も対応している。また、油物禁止の利用者には代わりに煮物で対応している。						
g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所時、本人が家で使用していた物を持参してもらっている。			○			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事していないが介助や見守りしながら必要な支援を行っている。			○			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	配膳前には全員が席についており、お茶を飲み会話しながら食事を待っている。			○			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が立てたメニューで栄養バランスはとれており、水分も多く取れるように対応している。						
k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量が少ない利用者には主治医に報告相談し、栄養補助食品等の処方してもらったり水分補給については回数を増やすなどしている。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は栄養士が立てており、一人分の分量が書いてあり偏りがないように分量通りの調理に努め、摂取してもらっている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	△	食器乾燥機の活用や夜間は調理器具もハイター消毒している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性は理解したうえで口腔ケアの支援は毎食後行っている。	/	/	/	歯科医にアドバイスをもらうなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。また、壁には早口言葉や歌詞を貼り、食事前には、口腔ケア体操を実施している。毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて、職員が介助や磨き残しなどのサポートをしている。中には、居室の洗面台で、自分で歯磨きをしている利用者もいるため、毎食後に全ての利用者の口腔内の状況までは確認することができていない。さらに、自分で歯磨きのできる利用者には、週1回確認する日を決めて、口腔内の状況を確認するなど、定期的に全ての利用者の口腔内の様子を確かめることを期待したい。異常が見られた場合には、早期に訪問歯科の治療に繋げている。加えて、月1回歯科医の訪問診療があり、新たな利用者や気になる利用者の検診等を実施している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自分でできない方に関しては介助時に確認しているが自分でできる方の確認は不十分。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	月1回歯科医の訪問があり、口腔ケアの相談をしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来ない方は介助している。出来る方は声掛けと見守り支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後の声掛け誘導を行い、利用者の能力に応じた支援を行っている。また、月1回の訪問歯科で異常があった場合は家族と連絡を取り、受診してもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。また、個々の状態に応じたものを使用している。	/	/	/	事業所には、立位等が取れないため、おむつを使用している利用者があるものの、トイレでの排泄支援を基本として、排泄チェック表で把握した利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせて、声かけやトイレ誘導などの支援をしている。中には、頻尿で、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、ミーティング時やモニタリング時を活用して、パッドなどの使用状況を職員間で話し合うとともに、排泄用品の使用時には、家族に確認をしたうえで使用をしている。さらに、入院時におむつを使用していた利用者が、退院して事業所に戻り、職員が声かけやトイレ誘導をすることにより、紙パンツや布パンツに変更することのできた利用者もいる。加えて、職員は、利用者の状態に応じて、パッドの枚数を減らしたり、布パンツの使用を検討したりするなど、家族の負担を考えて、利用者の力を引き出しながら、パッドや紙パンツなどの排泄用品に頼りすぎない支援にも取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	話し合いにより理解できている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表に記入して把握するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	モニタリングの活用やミーティングで話し合い個々の状態に合った支援を行っている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給の促しや入浴時には湯船につかってもらっている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	チェック表を活用し定期的声掛け誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	日中と夜間での使い分けは出来ているが、本人の好みではない。家族との話し合いもしていない。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	本人の能力に応じた対応をしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	水分を多くとってもらい、体操や軽い運動など工夫している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	声かけし本人の希望を聞きながら、希望に添えるように入浴してもらっている。	◎	/	○	利用者は、週3回程度入浴することができる。現在は、毎日や夕方入浴を希望する利用者はいないものの、施設長等は、「毎日の入浴を希望する利用者がいれば、状況により、できる限り柔軟な対応をしたい」と考えている。また、事業所では、利用者毎に曜日や時間帯を決めずに、希望や習慣、身体状況に合わせた入浴支援に努めている。さらに、職員は利用者毎に、午前や午後入浴時間を確認するとともに、入浴希望のない場合にも、日を替えて声かけをするなど、入浴をしてもらうことができています。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人のペースに合わせた支援を行っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声掛けと見守りでできない部分を見極め、出来ない部分を介助している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声掛けの仕方を工夫し、入浴準備から一緒にしたり、タイミングをずらして声掛けするようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	日中の状態を確認し入浴前にはバイタル測定行っている。入浴後は水分補給を行い状態の確認もしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録を取り、申し送り状態で把握するようにしている。	/	/	/	事業所には、入居前から眠剤などを継続して服薬している利用者があるほか、体調面を考えて、入居後に服薬を開始した利用者もいる。また、主治医の方針もあり、職員は服薬に頼りすぎない支援に努めており、日中の過ごし方を工夫するほか、医師に服薬の開始や終了、薬剤の使用量などを随時報告して、指示をもらっている。さらに、現在は服薬のコントロールなどもあり、夜間には、全ての利用者が安眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の声掛けやレクを行いながら、離床時間を増やし生活リズムを整えるよう工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	本人の状態を報告し、主治医と相談しながら指示に従っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由に安める環境づくりをしている。介助が必要な方は希望を聞き、状態を見ながら休んでもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	出来ていない為、今後取り組んでいきたい。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	字を書く練習を行っているので、今後は手紙を書けるよう支援していきたい。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族から贈り物が届いたら、職員がお礼の電話をして本人と話してもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	定期的にはがきが届く利用者については、職員が電話をして本人と話してもらっている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族の理解や協力は得られている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解は出来ていると思うが、管理は管理者が行っている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ感染予防対策で外出禁止になり、全くできなくなっている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	入居時に家族と相談しているが、現在希望はなく施設預りとなっている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	必要に応じて個別に対応している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族と相談し小額を金庫で預かり、預かり簿に記入し出し入れがあった時には2人対応で残金を確認している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来る限り家族の意向に沿えるよう取り組んでいる。	◎	/	○	コロナ禍以前は、利用者や家族の要望に合わせて、外出や外泊などに対応することができていた。コロナ禍において、面会制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、対応を調整しており、個室での面会にも対応している。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	安全上外玄関には施錠させてもらっている。特に工夫はしていない。	○	○	○	母体医院の横に、敷地の広い事業所は隣接している。外部から、門扉や外塀、緑茂る大きな木などが見られるほか、近隣のアパートや住宅に馴染んだ建物となっている。また、門扉横の塀には、一軒家風の表札と菜の花の図柄が施されている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	家庭的な雰囲気を心がけ、明るく季節の花や壁飾りを利用者と一緒に作成し飾っている。	○	○	○	3ユニットの事業所は、それぞれのユニットの間取りやキッチンなどの仕様が異なった構造となっている。コロナ禍の感染対策において、訪問調査日には事務所横の個室で、写真で事業所内の様子を確認することとなり、中庭を囲むように建つ平屋の3ユニットの建物が見られたほか、リビングの天井も高く、開放的となっている。また、中庭の中央付近には、シンボルツリー的な大きなさくらんぼの木が植えられるなど、利用者や来訪者は四季折々の様子を見ることができる。さらに、中庭は第2のリビングのようになり、利用者は気軽に出入りすることができる。加えて、和室に掘りごたつが設置されているユニットもある。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	フロアや居室内の掃除、定期的な換気、ポータブルトイレの清掃等行い、清潔を心がけている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	中庭の草花が見えるよう座席の配置を配慮し、テレビを付けたままにするなど家庭的な雰囲気の中で生活感が出るよう心掛けている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアにはソファもあり、利用者同士でくつろげるようにしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に家族にお願いし使い慣れたものを持ってきてもらって、個々の雰囲気や飾りつけをしている。	○	/	○	居室には、洗面台やベッド、エアコン、整理ダンスが備え付けられている。また、使い慣れた物のほか、仏壇などの希望する物を持ち込むことができる。さらに、好きな俳優のポスターを貼るなど、落ち着いて過ごせるような空間づくりの支援に努めている。中には、2つの部屋の中にある引き戸で、自由に行き来できる居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	安全な移動のための手すりが設置され、バリアフリーとなっている。個室の入り口に名札をかけて自分の部屋が分かるようにしたり、トイレ入り口にも表示をしている。	/	/	○	居室やトイレを分かりやすく表示しているほか、目の不自由な利用者にも、居室からリビングまで、移動しやすいように動線を工夫するなど、利用者自身の能力を活かしながら、自立した生活が送れるような支援に努めている。また、事業所では、ユニット毎の利用者の状態に適した場所に、日常的に使用する掃除道具や雑貨類などを収納方法を代えて配置し、いつでも手に取りやすいようにしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	×	テーブルにはおいていない。利用者によってはリスクがある方もいるので職員管理となっている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけたまま出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	玄関には常に施錠しており、利用者の弊害は研修では理解できても、日常的には危険回避という認識の方が強いので工夫はしていない。ただ、中庭にはいつでも出られるように中庭に面した窓は施錠していない。	×	◎	△	職員は内部研修等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。事業所は道路に面し、幹線道路から近いこともあり、利用者の安全面や防犯面を考慮して、門扉や玄関の施錠を行い、来訪者にはインターホンで対応している。日中には、ユニットの入り口等は開放して、自由に中庭に出られるようになっている。また、帰宅や外出の希望のある利用者には、職員が寄り添いながら、レクリエーションを実施したり、話しを聞いたりするなど、その都度納得してもらい、落ち着いてもらえるような支援に努めている。さらに、過去には、事業所内で検討を行い、門扉の解放を試みたことがあるものの、職員は利用者の見守りに重点を置き、通常業務が疎かになる場面が見られたため、施錠した現状の状態で、現在に至っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	自由な暮らしの理解はしているが、安全上施錠させてもらっている。話し合いは出来ていないが伝えている。	/	/	/	
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時に聞き取りした情報をまとめて、個人ファイルにとじてある。	/	/	/	/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル、食事量、水分量、排泄、睡眠状態等記入している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療機関にいつでも連絡できる体制があり、常に情報交換を行っている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人家族の意向を聞き受診してもらっている。	◎	/	/	/
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	主治医と連携が取れており、利用者はいつでも適切な医療を受けられるようになっている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後に連絡を行い、報告している。受診の必要性は主治医から家族に説明を行っている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度、介護サマリーを作成し情報を渡すようにしているが、間に合わない事もある。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ケアマネが病院と連携を取り、情報を確認し情報交換や相談業務を行っている。併設の病院とは日頃から連携取れている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎朝、主治医へ利用者の体調やバイタルなど書面で報告するなどして常に相談できる体制にあり、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間体制で連絡できる体制にあり、対応可能となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定を行い、小さな変化も報告するようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬情報はいつでも確認できるようにしている。内服後の状態に変化があれば、すぐに主治医に報告して、記録もしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	飲み忘れがないよう、服薬直前に2名で確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	体調の確認は毎日行い、変化がある時は必ず、報告している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時には必ず診察で家族の意向を確認し、また状態の変化に応じて主治医からの説明と家族の意向を確認している。				事業所には、「重度化対応・終末期ケア対応指針」があり、入居時に家族等に説明して、意向を確認している。また、利用者や家族の希望に応じて、看護師との24時間の連絡体制や、母体病院等との連携を図ることができており、事業所内で看取り支援を実施することは可能となっているものの、急変時や終末期には、病院や他の施設へ転院する利用者が多く、これまで事業所での看取り支援には至っていない。さらに、利用者の状態の変化が見られた場合には、その都度、医師や看護師と連携を図るとともに、家族や関係者を交えて話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医と連携し必要に応じて家族と話し合いを持ち、本人にとってどうしたらいいか検討している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	力量は把握しており、現状での職員の思いを聞き、支援内容を検討している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	医療と連携し、主治医に確認しながら対応可能な事を家族に伝え、理解を得るようにしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関と密に連絡を取り、連絡体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	特別な内容は主治医から説明があり、その後は職員が協力して家族のフォローに努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修は行けていない為、内部で研修を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練はしていないが実践を通して手順に沿った対応が出来るようになっている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	併設の病院からの安全委員会の監査で情報収集をし、テレビや新聞などから情報を取り入れている。また、併設の病院からの指示などにより対応するようになっている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は出勤前に検温や手洗い消毒を行っており、来棟者は現在いない。利用者にはまずく着用を声掛けしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	来棟時や毎月のお手紙で現況報告し、必要に応じて相談しながら家族も一緒に支援してもらっている。	/	/	/	コロナ禍以前は、納涼祭やクリスマス会などの行事に家族の参加を呼びかけて、一緒に食事を摂るなどの交流を図ることができていたものの、コロナ禍において、行事参加の呼びかけを自粛している。事業所には、面会制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、対応を調整しており、個室での面会を可能としている時期もあり、利用者や家族に喜ばれている。また、2～3か月に1回、事業所便りを発行するほか、毎月担当職員が利用者の状況報告を記載した手紙を送付して、近況を伝えている。さらに、月1回は、電話連絡で家族が利用者と会話できる機会を設けるなど、家族と良好な関係が築けるよう努めている。家族は、手紙や写真などの書面等で利用者の様子を知る機会はあるものの、面会制限が設けられているため、事業所内の雰囲気や職員の様子を見る機会はほとんどないため、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職などの事業所の出来事が家族に十分に伝わっていないことが窺えるため、事業所便りを活用して、事業所内の出来事を掲載したり、面会などの来訪時に伝えたりするなど、家族に安心してもらえるような周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ感染予防対策により家族様の参加は作っていない。	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	家族が知りたい事や不安に感じていることは機会あるごとに聞くように努め、来棟時や毎月の現況報告や菜の花便りで報告している。また、写真も送付している。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	施設での状態や認知症状や対応なども家族に報告し、理解を得るよう努め、本人の理解と関係性構築に努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の報告はしているが、設備や職員の情報は伝えていない。聞かれたら答えている。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについては必要に応じて説明し、本人ができるだけ自由に過ごせるように努めている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも相談できるように関係作りを努めている。来棟時には職員から積極的に話しかけ、顔や名前を知っていただき安心して話してもらえるようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時にケアマネから書面で説明し理解を得ている。また、変更時も説明し理解してもらっている。個別の質問にも対応している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	相談があれば主治医やケアマネと協力し出来るだけの対応を行っている。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明を行い理解を得ていると思う。	/	◎	/	コロナ禍以前は、幼稚園児や小学生と交流をしたり、ボランティアを受け入れたりするなど、地域住民と交流することができていた。また、市行政から介護相談員を派遣してもらい、利用者の話しを聞いてもらうこともできていた。事業所として、地域住民の集える認知症カフェの企画を検討していたものの、その矢先にコロナ禍となり、実現には至っていない。さらに、コロナ禍において、感染対策もあり、地域住民等と交流することは自粛しており、職員が近隣住民に挨拶を交わす程度に留まっている。加えて、事業所の立地上の問題もあり、日中の人通りは少なく、地域住民と会話を交わす機会も少なくなっている。コロナ禍の収束後には、幼稚園児等との交流を再開したり、利用者と一緒に地域行事へ参加したりするなど、利用者が地域において、少しでも多くの交流が図れることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	コロナウイルス感染予防対策の為、現在行っていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	現在、地域の方の協力は得られていない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	近所の方の訪問は今はなく、コロナが収束すれば今後来てもらえるようにしたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶はしているが日常的なおつきあいはない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルス感染予防対策の為、現在行っていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナウイルス感染予防対策の為、現在行っていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	×	現在は利用者と職員のみで行っており、家族や地域の方の参加はしてもらっていない。	○	△	○	コロナ禍以前には、併設の小規模多機能型居宅介護と合同で、運営推進会議を、利用者や地域住民の代表、会社社長、介護相談員、地域包括支援センター、市担当者の参加を得て開催していた。コロナ禍において、外部の参加は自粛してもらっているため、利用者や職員のみで会議を実施するとともに、利用者へ行事報告等をした後に、利用者からしてみたいことや困りごとなどを聞き、職員と意見交換をしている。また、議事録は市行政と家族に送付して、意見や感想を伝えてもらいやすい工夫をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	施設内での研修や行事報告を記載した議事録を家族の一部の方に送付している。またその際には議事録についての感想や意見交換が出来るようにアンケートを一纏めに配布して記入して返信してもらっている。	△	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	利用者や職員のみで現在は行っている。またテーマは毎回同じ内容になってきている。	△	◎	△	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所の理念は見えるところに提示しており、意識して、実践できるようにしている。	△	△	△	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	パンフレットには理念を載せている。	○	△	△	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	研修の計画を立て、職員の力量に応じて参加を促している。	△	△	△	医師である理事長は、往診等で頻りに事業所への来訪があり、利用者のほか、職員にも話しかけており、職員は、「日頃から気軽に声をかけてもらえる」と感じている。また、理事長夫人である事務長が、事業所に関する事務を担っており、施設長はミーティング等を活用して、職員の意見や要望を聞くとともに、物品購入などの出された意見を事務長に伝えて、必要に応じて対応してもらっている。さらに、事業所では内部研修を実施するとともに、希望する外部研修にも参加することができ、職員のスキルアップにも努めている。加えて、施設長等は、話しやすい雰囲気づくりにも努めていることもあり、職員同士で相談もしやすく、良好な関係が築かれている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	△	働きながらスキルアップできるように業務の中で技術を伝えるようにしている。	△	△	△	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	代表者は管理者と相談しながら、やりがいや向上心を持てるような環境や配置に努めている。	△	△	△	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	現在同業者との交流は出来ていない。外部の勉強会や研修の参加は今後行っていきたい。	△	△	△	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	現在、取り組めていない。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	△	ミーティングで話し合い学ぶ機会を持ち、言葉遣いや対応に気を付けるよう管理者や計画作成担当者が指導しているが、十分ではないと思う。	△	△	○	職員は内部研修で虐待防止などを学んでいる。また、ミーティング等を活用して、どのような行為が虐待や不適切なケアに該当するかを繰り返し伝えるとともに、職員は日々のケアを確認しながら、振り返りを行っている。さらに、不適切な行為が見られた場合には、職員同士でお互いに声をかけ合うほか、施設長等にも報告を行い、該当職員には注意喚起を行い、再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	ミーティングや内部研修の開会を通じて、振り返りを行うようにしているが、日々のケアについては話し合う機会は少ない。	△	△	△	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスが溜まらないようタイミングを見て声を掛けたり、個別で話しを聞くようにしている。	△	△	△	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	ミーティング等で話し合い、内部研修で理解を深めるよう努めている。また、資料はいつでも振り返りが出来るようにしている。	△	△	△	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	日々のケアの中で気になる事はミーティングでみんなで話し合い、確認意識するようになっている。	△	△	△	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束の希望があっても弊害などのリスクを説明するとともに事業でできる拘束しない取り組みをや工夫を話し合って家族の理解を得るようにしている。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	相談があればその都度対応できる体制はあるが、研修もしておらず学ぶ機会がなく、理解は不十分だと思う。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	個々の利用者の状況に応じて、必要な支援に努めている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しており、周知できるよう努めている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練はできていないが、実際の業務の中で指導し、実践力は見につけているが全員ではない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	ヒヤリハット報告については取り組んでおり、小さなことでも報告して記録の残すようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	申し送りやミーティングで常に話し合うようにしており、状態把握と事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があればすぐに話し合っており適切で迅速な対応ができるよう努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば早期に報告し、対応を検討し対応するようにしている。市に報告する事例はない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば早期に話し合い、適切な対応と良好な関係づくりに努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	現在、施設内には入れないため、機会は少ないが電話対応などで意見を聞いたり、プラン更新時に家族から意見を聞くようにしている。	○		○	日々の関わりの中で、職員は利用者から意見を聞くほか、利用者との1対1となった場面を活用して、意識して意見や要望を引き出すよう努めている。また、運営推進会議の中で、職員はしたいことや困りごとを聞くなど、利用者の話しやすい状況で、意見や要望の聞き取りをしている。家族には、毎月の電話連絡時に要望を聞いている。さらに、施設長は職員と一緒に利用者のケアにあたっており、日頃から職員の意見を聞くとともに、出された意見を利用者本位の支援に繋げられるよう努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時には説明しているがその後は情報提供していない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	△	代表者は毎日ではないがユニットに来られているが、直接職員に話を聞く機会はあまりない。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	一人ひとりの意見はミーティングで聞いたり、個別に聞いたりしながら利用者本位の支援に繋がるように努めている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回自己評価を行い、取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、ユニット毎に作成をしている。サービスの評価結果は、ミーティングを活用して、職員へ周知するとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。コロナ禍において、外部の参加メンバーの参加した運営推進会議の開催ができていないため、サービスの評価結果は報告できていない。利用者や職員のみでの会議開催や書面開催においても、今回の評価結果が報告できるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。さらに、コロナ禍の収束後には、家族や参加メンバーに、外部評価の目的やサービスの評価結果を説明するとともに、目標達成に取り組んでいく内容を伝えた上で、取組み状況のモニターへの協力を呼びかけて、意見や助言をもらい、サービスの質の向上に繋げられることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	ミーティングで結果報告を行い、話し合う機会を持ち、目標に向けて取り組んではいるが、コロナ感染予防対策もあり、あまりできていない。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価の結果報告はユニット職員にはミーティングで報告があったが、地域や外部の方、家族にモニターはしてもらっていない。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標達成の取り組みはしているが成果の確認はできていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルは作成しているが、災害の演習は行っておらずマニュアルも見ることが少ない。				年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍において、消防署の協力や他の施設等の参加は自粛しているため、職員のための訓練となっている。また、市行政から、事業所は福祉避難所に指定され、食料などの備蓄品を用意している。今後は、全ての職員が災害発生時にも落ち着いて対応できるように、様々な災害を想定して、迅速に安心安全な対応が取れるように繰り返して訓練を行うなど、課題を見つながら、改善していきけることを期待したい。さらに、コロナ禍において、集合形式の運営推進会議の開催ができておらず、地域住民と話し合う機会がないため、協力依頼できそうな民生委員や地域住民と連携を図りながら、少しずつ地域との協力体制が築けることを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回は避難訓練を実施しており、1回は日中、もう1回は夜間想定で訓練している。					
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に避難経路の確認や非常食の点検は行っている。					
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	年に2回の避難訓練を行っているが、域住民の参加はない。コロナ感染予防の為、消防署の参加も断られている。	×	×	△		
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	現在、まったく取り組めていない。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域に向けての発信はできていない為、今後取り組みたい。				地域の高齢者から相談が寄せられた場合には、法人の居宅介護支援事業所と協力をしながら、適切な相談対応をしている。また、施設長は、「地域との繋がりを増やして、地域住民が気軽に相談に来訪できるような事業所を目指していきたい」などの思いがあり、コロナ禍以前に考えていた認知症カフェの開催を市行政や他の事業所と連携を図りながら、コロナ禍の収束後に開催できるように検討したり、気軽に参加できるイベントで、広報啓発や相談する機会を設けたりするなど、職員間で検討することを期待したい。さらに、市行政や地域包括支援センター等が主催する研修や会議に参加する機会は減っているものの、継続した連携が図れるよう努めている。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば支援できるようにしている。		×	△		
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	現在、コロナ感染予防対策もあり、全く取り組めていない。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在受け入れはない。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	連携は取れておらず、イベント参加もできていない。			○		

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 7 月 12 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3873300291
事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	すみれ
記入者(管理者)	
氏名	古川真奈美
自己評価作成日	令和 4 年 6 月 30 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 私たちは優しい介護の提供を目指します。                  2. 温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。                  3. 常にご利用者の立場になることを忘れません。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①一人ひとりの尊厳を大切にしながら日々のケアの支援が出来るように取り組む                  ②家族様の参加が増えるような行事に取り組み交流が増えるようにする</p> <p>【結果】</p> <p>①月1回のミーティング時に研修を行ったり、話し合いながら日々のケアが出来ている                  ②コロナウイルス感染予防対策があり、面会禁止や行事回数が減ったこともあり施設内だけで行っており未達成。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>平屋建ての事業所は、幹線道路の近くにある母体医院に隣接して、立地している。敷地内の中庭には緑の木々も多く植えられ、夏にはツバメが飛び交うなど、利用者は自由に中庭に出て、季節を感じる事ができる。コロナ禍において、事業所には面会制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、対応を調整しており、個室での面会を可能としている時期もあり、利用者や家族に喜ばれている。また、職員は利用者の希望を聞きながら、各ユニットで身体を動かすレクリエーションを取り入れるなど、日々利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。さらに、個別の生活機能向上計画書を作成して、作業療法士の助言や評価をもとに、日常生活動作の中に歩行訓練などのリハビリを取り入れたり、脳トレに取り組んだりするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。加えて、事業所では、利用者洗濯物干しやたみ、掃除などの役割を担ってもらうとともに、職員は意識しながら、継続して利用者の人権や尊厳を大切に支援に努めている。</p>
---	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居前に確認している。また、日々の会話などでも希望や意向を確認している。	○	/	○	入居前に、職員は家族や利用者から、思いや暮らし方の希望などを聞いている。また、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を知ることも多く、アセスメントシートや毎日の記録に記載している。さらに、自分で意思を伝えることが難しい利用者には、職員が声かけを工夫するとともに、表情やしぐさから思いを汲み取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	表情を観察し職員間で話し合い、本人の立場に立って考えている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	来棟時や今月の一言などで家族に施設での様子を伝えながら本人の思いなどを話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	言葉や気付きを観察記録や日誌に記入している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	一方的にならないよう本人の言葉や言動に耳を傾けながら対応するように努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前にできるだけしっかりと聞き取りをするようにしている。	/	/	○	入居時に、フェイスシートやアセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や性格、これまでの暮らし、現状などを聞いている。また、入居前に利用していた介護サービス事業所や居宅介護支援事業所等の関係者から、情報収集をしている。さらに、入居後、日々の関わりの中で、職員は新たな情報を知ることも多く、把握した内容はアセスメントシート等に記録して、職員間の情報共有に努めている。加えて、6か月に1回、介護計画の更新に合わせて、アセスメントシートの情報を更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	個々の状態をみて、できる事、できない事を見極めながらできる事は続けてもらいながら新たな事を少しずつチャレンジしてもらっている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	一人ひとり観察記録に24時間記入で書き、生活リズムの変化や把握を行い、日誌などでわかるようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	他職種間でも話し合ったりして、ミーティングでも情報共有できるようにしている。	/	/	○	把握した情報をもとに、「利用者にとって必要なサービスは何か」などを、計画作成担当者や職員、家族、医療関係者等を交えて、利用者の視点に立って、話し合いをしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	毎月モニタリングを行い、情報を共有した上で課題を把握するようにしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	アセスメントを基に本人らしい生活が出来るように具体的なプランになっている。	/	/	/	コロナ禍において、外部の関係者の参加した担当者会議等が開催できないため、事前に職員は利用者や家族から、思いや意向などを聞くほか、書面で確認をしている。また、医師やリハビリ担当者から、意見や指示をもらっている。さらに、把握した情報と、事前に聞いた意見を踏まえて、月1回実施するミーティングを活用して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に、介護計画を作成している。加えて、利用者や家族から出された意見が反映された介護計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族の思いを聞き取り、出来るだけ希望が反映できるようなプランになっている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対してでも、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	意味疎通困難な利用者は家族から聞き取りを行い、本人の思いをくみとるように努めている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	家族等の協力もプランに盛り込まれている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	プランに沿って毎日評価を行ったり、月一回はモニタリングを行い把握しかりいするようにしている。	/	/	/	◎ 事業所では、ミーティングを活用して介護計画の内容を話し合うとともに、日々の支援経過記録の様式に、介護計画の内容が転記され、職員は計画やサービス内容を確認しながら、計画に沿ったサービスの実施記録を分かりやすく記載できるようになっている。また、月1回担当職員が、経過記録のサービスの実施の有無等を確認して、利用者の現状を確認している。さらに、サービス提供による利用者一人ひとりの状態の変化を数値化して評価するとともに、詳細な評価結果を記録に残すなど、職員はサービス内容を理解して、計画に沿ったケアが実践されている様子を確認することができた。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日プランに沿って評価し、毎月プランに沿ってモニタリングしてミーティングで話し合いを行い支援に努めている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	ミーティングで話し合い、期間に応じて見直ししている。	/	/	/	◎ 介護計画は、短期目標等に合わせて、6か月に1回を基本として、見直しをしている。月1回実施するミーティングを活用して、担当職員がモニタリングを実施して、利用者一人ひとりの現状を確認するとともに、必要に応じて、職員間で話し合いをしている。また、利用者の状態に変化が見られた場合には、随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングをし、ミーティングで現状確認を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院やその他、本人の状況に変化が生じた時は家族や関係者と新たな要望等を聞き取りし現状にあったプランを作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上で課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月ミーティングを行い、話し合い、緊急時にはその都度話し合っている。	/	/	/	○ 各ユニットで、毎日の申し送りを実施するほか、月1回ミーティングを開催して、職員間で情報共有や課題などの話し合いをしている。また、緊急案件のある場合には、内容によりその場にいる職員で話し合い、迅速な対応に努めている。さらに、参加できなかった職員には、後日ミーティングノートなどの会議録を確認してもらい、ユニットの全ての職員が情報共有できるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員間で気づきや考えを意見交換が出来るようになっており、話やすい雰囲気になっている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	可能な限り職員が参加しやすい時間帯を選び、参加できている。また、参加できなかった職員はミーティングノートを確認するようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝と夕の申し送りをし、重要な事等は日誌に記入し情報共有できるようにしている。	○	/	○ 日々の朝夕の申し送りを口頭で実施している。また、職員は出勤時に申し送りノート等を確認し、確認後にはサインを残して、確実な情報共有に努めている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	声掛けを行い、本人のしたい事を把握し支援できるようにしている。	/	/	/	○ 日々のレクリエーションの内容や食べたいおやつなど、職員は利用者から希望を聞くとともに、意識した声かけをして、自己決定してもらえるよう努めている。時には、利用者から出されたリクエスト等に応じて、職員と一緒に、お好み焼きなどを手づくりすることもあり、利用者に喜ばれている。また、事業所便りには、中庭で草花の手入れを楽しんだり、中庭を眺めながら、ウッドデッキでカレーを食べたりする利用者の様子を確認することができるなど、職員は利用者の楽しみや活き活きとした表情を引き出す支援に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	生活の中で自己決定できるように声掛けを行い、出来るだけ自己決定できるような機会を持つようになっている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	本人の意向や体調など本人のペースに応じて就寝時間を遅らせたり入浴するタイミングを利用者に応じて支援するようにしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人の楽しみや得意としているものを聞き、役割のある暮らしができるように言葉がけを行ったりして支援している。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や体の動きなどを見極めながら支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	プライバシーの研修を行って学び理解し声掛けや対応は常に意識しているが、配慮が足りない事もある。	○	○	○	○ 年度当初に、事業所では接遇などの内部研修を実施して、職員は利用者の尊厳や人権を尊重した対応を学んでいる。対応には、職員により個人差が見られるものの、常に施設長等は利用者への対応に満足することなく、ミーティングで話し合うほか、ケアや対応の振り返りを重ねるなど、研鑽に努めている。また、新入職員が入った際には、職員間で意識した声かけを行うなど、より良い緊張感が生まれ、サービスの質の向上にも繋がっている。さらに、居室への入室時には、利用者の状況に応じて、ノックや声かけなどをして入室するとともに、利用者が不快に思わないような配慮をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	不安にならないように声掛けに気を付け、羞恥心にも配慮するように努めている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室の出入りなどする場合は声をかけたりして配慮している。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入職時に説明し、誓約書を書いてもらっている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	できる事は手伝ってもらいながら、感謝の言葉を伝えている。				職員は、利用者同士の性格や関係性を把握して、トラブルにならないように見守りや配席などの考慮をしている。また、言い合いなどのトラブルが発生した場合には、早期に職員が間に入るなどの対応をしている。さらに、食事などの際に、他の利用者の世話をしたり、レクリエーション時に、号令や声かけなどのリーダーシップを発揮したりする利用者もおり、職員は利用者同士の助け合いや支え合いを見守っている。加えて、各ユニットには男性利用者が少なく、ベースを大切にしながら孤立しないように、職員は心がけて声かけをするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士がお互いいたわりながら暮らせるように見守りしている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	○	トラブルになることもあるが職員が間に入り孤立しないようお手伝いの工夫にも努め、また仲の良い利用者が一緒に暮らせるように座席を変えたり、ソファを活用したりしている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間にはいりそれぞれのプライドを傷つけないように解消している。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	一部の方だけが人間関係の把握は出来ており、馴染みの場所等を把握するようにしている。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナウイルス感染予防対策により、面会や外出ができていない。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナウイルス感染予防対策により、外出はできておらず、中庭で日光浴を定期的に時間を決めずに行っている。	△	×	○	コロナ禍以前は、日常的にスーパーへ食材の買い出しに行ったり、外出行事で季節の花を見に出かけたり、外食に出かけるなどの外出支援をすることができていた。現在のコロナ禍において、外出制限が設けられており、事業所では中庭に出て、外の空気に触れたり、季節を肌で感じてもらうことを大切に支援に努めている。また、希望をする利用者は、職員と一緒に散歩に出かけたり、中庭の思い思いの場所で過ごしてもらったり、一緒に歌を歌うなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう努めている。さらに、重度の利用者にも、屋外に出て、外気浴をしてもらうなど、気持ち良く過ごせるような支援にも努めている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナウイルス感染予防対策により、ボランティア協力も中止している。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症について内部研修を行い、個々の症状に応じたケアに努めている。				事業所では、利用者一人ひとりのできることやできそうなことの詳細なアセスメントを行うとともに、自分でできることはしてもらい、職員は手や口を出しすぎないような見守りや、できない部分のサポートをしている。また、個別の生活機能向上計画書を作成して、作業療法士の助言や評価をもとに、日常生活動作の中にリハビリを取り入れたり、脳トレをしたりするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。さらに、訪問調査日には、中庭から廊下で歩行訓練をする利用者の様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	日常生活の中で機能維持が出来るように車椅子から椅子に乗り換えていただいたり、歩行演習したりして動く機会を増やし、出来るだけトイレ誘導も行い、排泄機能が維持できるように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	見守りでできる事はして頂き、できない所と一緒にしたりするようにしている。			○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	生活歴や会話の中で得意とすることを役割や楽しみを把握して出来るように支援している。				洗濯物干しやたみ、掃除など、日常的に事業所では、利用者の得意なことを活かした役割を担ってもらえるような支援に努めている。また、事業所便りには、中庭の芝生に座って草引きをする利用者の様子が見られ、車いすを使用しているも、継続して生き生きと自分の好きなことをしながら、生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の状態に応じた役割が施設内で持てるよう取り組み、張り合いのある生活が送れるように支援しているが、施設外では取り組みはない。	○	○	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	会話の中で好みなどを把握するようにしている。				食べこぼしの汚れや整容の乱れが見られた場合には、職員が利用者の羞恥心やプライドを傷つけないように、さりげなくフォローしたり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの配慮をしている。また、起床時には、着る服を自分で選び、お気に入りの髪型に整容するなど、好きなおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。さらに、状態に応じて、日中にベッド上で過ごすことが多い利用者があるものの、中にはパジャマから普段着に着替えてもらうなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。		
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	自分でできる方は服装を選択してもらい、髪や長さも好みの長さに出来るように支援している。						
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の気持ちや好みをくみとりながら、一緒に考え決定できるようにしている。						
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	衣替えは家族に協力してもらい、季節に合った服装を選び、その人らしさを楽しめるようにしている。						
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく声掛けを行ったり、支援して手直ししたり、清潔に過ごしてもらえるようにしている。	◎	◎	○			
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	コロナにより外出で来ておらず、家族の許可で職員が散髪している。						
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	これまでの好みや髪形を活かして、本人らしさが保てるように努めている。					○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事の大切さを理解して、個々の状態に応じて支援している。						
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	下膳や食器洗いなどできる利用者には一緒にしてもらっている。				法人の栄養士が、旬の食材を取り入れながら、栄養バランスの取れた献立を作成している。食材は、業者に配達してもらい、利用者にもやしの根っこ取りなどの調理のしごしらえや食器洗いなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。利用者一人ひとりの好き嫌いやアレルギーの有無などは、アセスメントシートに記録して、職員間で共有するとともに、苦手な食材等のある場合は、代替品などを用意している。利用者のリクエストを取り入れて、おはぎや寒天ゼリーなどのおやつを、職員と一緒に手作りすることもある。食器類は、使い慣れた物のほか、状態に合った使いやすい物を使用している。コロナ禍以前は、食事の際に、利用者と一緒に同じ食事を摂ることができていたものの、コロナ禍において、職員はフェイスシールドとマスクをしながら、見守りや食事介助をするとともに、各自が用意して、別々に食事をしていく。また、全ての利用者はリビングで食事をしており、調理の匂いや音を感じることができる。さらに、利用者の状態や医師の指示に応じて、とろみなどの食の形態にも対応している。加えて、食事内容や利用者の嚥下状態が気になる場合には、ミーティング等を活用して職員間で話し合うとともに、医師に相談して、アドバイスや指示をもらうことができていく。		
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	片付けをしてもらって利用者の自信に繋げている。						
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人や家族から聞き取りし好き嫌いやアレルギーの把握に努めている。						
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	○	献立は栄養士が作成しており、旬の食材を組み込まれたメニューになっている。また、利用者の好みのメニューは把握している。					◎	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	主治医の指示のもと、個々の状態に応じた食事形態で刻みやミキサー食で提供し、盛り付けにも気を付けて提供している。						
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	コップなど使い慣れたものや好みの物を持参していただいている。						○
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員は一緒に食べたいが食事中は横で食事介助や見守り支援を行っている。						○
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理中の匂いや音で食事前からメニューについて会話を行っている。			○			○
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	献立は栄養士がバランスやカロリーを考え立てている。食事量・水分量は確保できるように努めている。						
		j	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	声をかけたり、食事を遅らせたりしている。また水分は声掛けの回数を増やしたり、好みを水分を摂取できるように工夫している。						
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立は栄養士が立てており、バランスの良い食事になっているため話し合っていない。						
l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食器乾燥機を使用したり、定期的に消毒し衛生に気を付けている。								

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性の理解はできており、日々毎食後口腔ケアに努めている。	/	/	/	歯科医にアドバイスをもらうなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。また、壁には早言葉や歌詞を貼り、食事前には、口腔ケア体操を実施している。毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて、職員が介助や磨き残しなどのサポートをしている。中には、居室の洗面台で、自分で歯磨きをしている利用者もいるため、毎食後に全ての利用者の口腔内の状況までは確認することができていない。さらに、自分で歯磨きのできる利用者には、週1回確認する日を決めて、口腔内の状況を確認するなど、定期的に全ての利用者の口腔内の様子を確かめることを期待したい。異常が見られた場合には、早期に訪問歯科の治療に繋げている。加えて、月1回歯科医の訪問診療があり、新たな利用者や気になる利用者の検診等を実施している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時や食事介助時などに口腔内の確認把握している。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	月1回歯科往診の際に相談やアドバイスをもらっている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できる方は見守りですて頂き、できない方は介助している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎日口腔ケアは行い、清潔に保てるように確認等の支援し、異常があれば毎月の歯科往診時に診てもらっている。必要に応じて家族に相談し歯科受診してもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	オムツ使用が利用者の心身に与えるダメージも理解し、オムツや紙パンツの方もトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるように努めている。	/	/	/	事業所には、立位等が取れないため、おむつを使用している利用者があるものの、トイレでの排泄支援を基本として、排泄チェック表で把握した利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせて、声かけやトイレ誘導などの支援をしている。中には、頻尿で、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、ミーティング時やモニタリング時を活用して、パッドなどの使用状況を職員間で話し合うとともに、排泄用品の使用時には、家族に確認をしたうえで使用をしている。さらに、入院時におむつを使用していた利用者が、退院して事業所に戻り、職員が声かけやトイレ誘導をすることにより、紙パンツや布パンツに変更することのできた利用者もいる。加えて、職員は、利用者の状態に応じて、パッドの枚数を減らしたり、布パンツの使用を検討したりするなど、家族の負担を考慮して、利用者の力を引き出しながら、パッドや紙パンツなどの排泄用品に頼りすぎない支援にも取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘の及ぼす影響も理解し、トイレ誘導や水分摂取を促したり体を動かすように努めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表に記入し把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々の状態に応じてオムツの使用の必要性を話し合い支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	個々に応じた水分補給の促しや体を動かす事で少しでも改善できるように話し合い取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表でパターンを把握し、個々に応じた誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	変更する際には家族に伝えたり、相談している。また時間帯で紙パンツからオムツに使い分けも行ったりしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	個々に応じて下着やおむつの使い分けをしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	身体を動かす事や水分量を増やしたり、定期的にトイレに座っていただくようにしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	午前や午後と声掛けを行ったりして利用者の希望に沿って入ってもらったり、長湯の方も体調を見ながら、希望に添えるようにしている。	◎	/	○	利用者は、週3回程度入浴することができる。現在は、毎日や夕方入浴を希望する利用者はいないものの、施設長等は、「毎日の入浴を希望する利用者がいれば、状況により、できる限り柔軟な対応をしたい」と考えている。また、事業所では、利用者毎に曜日や時間帯を決めずに、希望や習慣、身体状況に合わせた入浴支援に努めている。さらに、職員は利用者毎に、午前や午後入浴時間を確認するとともに、入浴希望のない場合にも、日を替えて声かけをするなど、入浴をしてもらうことができています。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ1対1で入浴していただき、できるだけ自分のペースで入ってもらっている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で洗えるところは洗ってもらい、できない所を支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒否がある場合は話を聞いて、時間を変えたりしながら対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前には血圧や体調など確認してから入ってもらっている。また浴後にはホールで状態観察を行い、水分補給をもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	観察記録や申し送りなどで睡眠パターンの把握に努めている。	/	/	/	事業所には、入居前から眠剤などを継続して服薬している利用者があるほか、体調面を考えて、入居後に服薬を開始した利用者もいる。また、主治医の方針もあり、職員は服薬に頼りすぎない支援に努めており、日中の過ごし方を工夫するほか、医師に服薬の開始や終了、薬剤の使用量などを随時報告して、指示をもらっている。さらに、現在は服薬のコントロールなどもあり、夜間には、全ての利用者が安眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中、離床時間を増やしたり、レクとを行い生活リズムが整うように工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	週に一度主治医に日常なども報告相談して薬の調整も含め支援している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自立している方は自由に休んでもらい、支援が必要な方は状況を見ながら休んでもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	電話をかける方はいないがかけた時等は取次ぎを行ったり、手紙も返信を書けるようにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	電話希望があれば対応しているがかけられる方はいない。手紙はかけられる方には書いてもらえるようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	気兼ねなく電話で話せるように電話を渡したりしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時には本人に書いてもらったり、職員が代わりに書いたりして返信している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族にも理解協力してもらっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	管理は職員が行っており、本人にとっての意味や大切さの理解は十分とは言えない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナで外出で来ておらず、今は移動スーパーも利用できていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	必要に応じて家族に相談し対応している。コロナの為お金を使うところに行けてない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時や必要に応じて相談し使い道なども報告している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金がある場合は金庫で預り、預り簿に記入し、出し入れがあった場合は2人に対応し確認している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の協力や職員間の話し合いを行い、できる限り個々の意向に沿った対応ができるように取り組んでいる。	◎	/	/	コロナ禍以前は、利用者や家族の要望に合わせて、外出や外泊などに対応することができていた。コロナ禍において、面会制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、対応を調整しており、個室での面会にも対応している。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	安全上、玄関は施錠している。現在、コロナ感染予防のため施設内への出入りはできない。	○	○	○	母体医院の横に、敷地の広い事業所は隣接している。外部から、門扉や外塀、緑茂る大きな木などが見られるほか、近隣のアパートや住宅に馴染んだ建物となっている。また、門扉横の塀には、一軒家風の表札と菜の花の図柄が施されている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	天井は高く開放的で明るく、適度な広さでソファや掘りごたつもあり、家庭的なものを配置している。壁には利用者の作品や季節の飾りつけを行っている。	○	○	○	3ユニットの事業所は、それぞれのユニットの間取りやキッチンなどの仕様が異なった構造となっている。コロナ禍の感染対策において、訪問調査日には事務所横の個室で、写真で事業所内の様子を確認することとなり、中庭を囲むように建つ平屋の3ユニットの建物が見られたほか、リビングの天井も高く、開放的となっている。また、中庭の中央付近には、シンボルツリー的な大きなさくらんぼの木が植えられるなど、利用者や来訪者は四季折々の様子を見ることができる。さらに、中庭は第2のリビングのようになっており、利用者は気軽に出入りすることができる。加えて、和室に掘りごたつが設置されているユニットもある。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、換気を徹底しており、清潔感がある空間に努めている。	○	○	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	対面キッチンで食事作りの匂いやお花を飾ったりして刺激のある生活が送れるようにしている。	○	○	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ソファや椅子の配置でくつろげるように工夫している。	○	○	○	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使用していた使い慣れたタンスや椅子、写真など本心が心地よく過ごせるようにしている。	○	○	○	居室には、洗面台やベッド、エアコン、整理ダンスが備え付けられている。また、使い慣れた物のほか、仏壇などの希望する物を持ち込むことができる。さらに、好きな俳優のポスターを貼るなど、落ち着いて過ごせるような空間づくりの支援に努めている。中には、2つの部屋の中にある引き戸で、自由に行き来できる居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや浴室など表示やフロア内は動線に手すりを設置し、できるだけ自立した生活が送れるようになっている。	○	○	○	○ 居室やトイレを分かりやすく表示しているほか、目の不自由な利用者にも、居室からリビングまで、移動しやすいように動線を工夫するなど、利用者自身の能力を活かしながら、自立した生活が送れるような支援に努めている。また、事業所では、ユニット毎の利用者の状態に適した場所に、日常的に使用する掃除道具や雑貨類などを収納方法を代えて配置し、いつでも手に取りやすいようにしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	リビングの食卓は食事をするため、雑誌やの道具、掃除道具は職員が管理し、所定の位置に置いている。掃除をしてくださる方は自分で出し入れする方もおられる。	○	○	○	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	十分に理解は出来ているが安全面を考慮して玄関は施錠している。内玄関は施錠しておらず、中庭には自由に入出入りしてもらって気分転換が図れるようにしている。	×	◎	△	職員は内部研修等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。事業所は道路に面し、幹線道路から近いこともあり、利用者の安全面や防犯面を考慮して、門扉や玄関の施錠を行い、来訪者にはインターホンで対応している。日中には、ユニットの入り口等は開放して、自由に中庭に出られるようになっている。また、帰宅や外出の願望のある利用者には、職員が寄り添いながら、レクリエーションを実施したり、話を聞いたりするなど、その都度納得してもらい、落ち着いてもらえるような支援に努めている。さらに、過去には、事業所内で検討を行い、門扉の解放を試みたことがあるものの、職員は利用者の見守りに重点を置き、通常業務が疎かになる場面が見られたため、施錠した現状の状態で、現在に至っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	家族様には説明して理解してもらっている。	○	○	○	
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に聞いた情報をまとめて、個々のファイルに閉じて、いつでも確認できるようにしている。	○	○	○	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日のバイタルや食事量・排泄状態や体調の変化など記録に残している。	○	○	○	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	常に気になる事があれば隣接する医療機関と連絡相談している。	○	○	○	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人の状態や家族の意向で受診できるように支援している。	○	○	○	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	主治医と連携し、また協力機関とも連携をとり、早期に対応できるようになっている。	○	○	○	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	必要に応じて主治医の説明が家族に行われ、合意が得られるように努めている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院に必要な情報をまとめ、情報共有しているが、サマリーが間に合わない事もある。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ケアマネが定期的に病院に病院と連携し情報交換を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	毎朝、夜間の状態を書類で提出し、日中も気になる事があればその都度、看護師に報告相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間体制で連絡が取れ、何かあれば報告相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	1日の様子は254時間シートに状態を記録し、体調の変化がある場合には早期に受診できるようになっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬情は個々で保管し、いつでも確認できるようにしており、内服後の状態に変化があれば報告している。また家族にも報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れや誤薬がないように内服前には本人と一緒に名前を伝えながら服用してもらっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の変更時には副作用がないか体調や状態に気を付けて、様子観察している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居の契約時に重度化や終末期の対応を書面で説明し、家族に同意を得ている。状態の変化時には主治医からの説明があり、家族の意向を確認しながら方針を共有している。				事業所には、「重度化対応・終末期ケア対応指針」があり、入居時に家族等に説明して、意向を確認している。また、利用者や家族の希望に応じて、看護師との24時間の連絡体制や、母体病院等との連携を図ることができており、事業所内で看取り支援を実施することは可能となっているものの、急変時や終末期には、病院や他の施設へ転院する利用者が多く、これまで事業所での看取り支援には至っていない。さらに、利用者の状態の変化が見られた場合には、その都度、医師や看護師と連携を図るとともに、家族や関係者を交えて話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	必要に応じて主治医や家族と相談しながら方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の思いや力量を把握してできる限りの支援の見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	本人の状況や必要に応じて、しっかりできる事・できない事を伝えたくて医療と連携し対応について説明し、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関とは密に連絡を取りながら、支援できる体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の気持ちに寄り添えるように努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	内部研修で感染については学び、マニュアルもあり早期に対応できるようにしている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	訓練はしていないがマニュアルもあり、いつでも確認できるようにしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	テレビや隣接する病院から情報を取り入れ対応している。また、併設の病院からの情報や指示も取り入れ対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は出勤時施設に入る前に手洗いや手指消毒や検温、マスク着用している。来棟者はいないが利用者にも常にマスク着用を声掛けしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	電話連絡時や来棟時など、また毎月のお手紙で現況報告し、必要に応じて相談しながら家族も一緒に支援してもらっている。	/	/	/	コロナ禍以前は、納涼祭やクリスマス会などの行事に家族の参加を呼びかけて、一緒に食事を摂るなどの交流を図ることができていたものの、コロナ禍において、行事参加の呼びかけを自粛している。事業所には、面会制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、対応を調整しており、個室での面会を可能としている時期もあり、利用者や家族に喜ばれている。また、2～3か月に1回、事業所便りを発行するほか、毎月担当職員が利用者の状況報告を記載した手紙を送付して、近況を伝えている。さらに、月1回は、電話連絡で家族が利用者と会話できる機会を設けるなど、家族と良好な関係が築けるよう努めている。家族は、手紙や写真などの書面等で利用者の様子を知る機会はあるものの、面会制限が設けられているため、事業所内の雰囲気や職員の顔を見る機会はほとんどないため、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職などの事業所の出来事が家族に十分に伝わっていないことが窺えるため、事業所便りを活用して、事業所内の出来事を掲載したり、面会などの来訪時に伝えたりするなど、家族に安心してもらえるような周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ感染予防対策により家族様の参加の機会は作っていない。	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	電話連絡時や来棟時、現況報告や菜の花便りでの利用者の状況を報告し、会話の中で家族の気持ちをできるだけ汲み取るようにしている。写真も家族に送付している。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	施設での状態や認知症状や対応なども家族に報告し、理解を得るよう努め、本人の理解と関係性構築に努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	菜の花便りで行事の報告はしているが、設備や職員の情報は伝えていない。聞かれたら答えている。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	必要に応じて家族に説明し、本人ができるだけ自由な感じで過ごせるように努めている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも気軽に何でも相談できるよう、日ごろから関係作りに努めている。来棟時には職員から積極的に話しかけ、顔や名前を知っていたり安心して話してもらえるようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時にケアマネから書面で説明し理解を得ている。また、変更時も説明し理解してもらっている。個別の質問にも対応している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居時には相談に乗り、家族の意向を聞き、納得のいく退居先まで支援している。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	コロナになり、地域との交流が減り理解説明ができていない。	/	◎	/	コロナ禍以前は、幼稚園児や小学生と交流をしたり、ボランティアを受け入れたりするなど、地域住民と交流することができていた。また、市行政から介護相談員を派遣してもらい、利用者の話しを聞いてもらうこともできていた。事業所として、地域住民の集える認知症カフェの企画を検討していたものの、その矢先にコロナ禍となり、実現には至っていない。さらに、コロナ禍において、感染対策もあり、地域住民等と交流することは自粛しており、職員が近隣住民に挨拶を交わす程度に留まっている。加えて、事業所の立地上の問題もあり、日中の人通りは少なく、地域住民と会話を交わす機会も少なくなっている。コロナ禍の収束後には、幼稚園児等との交流を再開したり、利用者と一緒に地域行事へ参加したりするなど、利用者が地域において、少しでも多くの交流が図れることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	コロナ感染対策により、外出参加できていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域との交流ができていない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	現在は気軽には来棟してもらっていない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶はするが日常的な交流はできていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルス感染予防の為、行事もできておらずボランティアの訪問もなく、地域との交流はできていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	以前は移動スーパーや近くの飲食店の利用や幼稚園や小学校との交流はし、関係性ができていたが、コロナ感染予防対策によりできていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	現在は利用者と職員のみで行っており、家族や地域の方の参加はしてもらっていない。	○	△	○	コロナ禍以前には、併設の小規模多機能型住宅介護と合同で、運営推進会議を、利用者や地域住民の代表、会社社長、介護相談員、地域包括支援センター、市担当者の参加を得て開催していた。コロナ禍において、外部の参加は自粛してもらっているため、利用者や職員のみで会議を実施するとともに、利用者へ行事報告等をした後に、利用者からしてみたいことや困りごとなどを聞き、職員と意見交換をしている。また、議事録は市行政と家族に送付して、意見や感想を伝えてもらいやすい工夫をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	コロナ感染予防対策により運営推進会議に施設外の参加は現在ない。そのため、報告や公表もできていない。家族には定期的に会議の内容を送付し意見をいただいている。	△	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナウイルス感染予防で施設内には入れないため、職員と利用者のみで行っている。毎回同じ内容になってきている。	×	△	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所の理念は見えるところに提示しており、意識して、実践できるようにしている。	△	△	△	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	パンフレットには理念を載せている。	○	△	△	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	内部で計画を立て、毎月いろんな研修を行い取り組んでいる。	△	△	△	医師である理事長は、往診等で頻りに事業所への来訪があり、利用者のほか、職員にも話しかけており、職員は、「日頃から気軽に声をかけてもらえる」と感じている。また、理事長夫人である事務長が、事業所に関する事務を担っており、施設長はミーティング等を活用して、職員の意見や要望を聞くとともに、物品購入などの出された意見を事務長に伝えて、必要に応じて対応してもらっている。さらに、事業所では内部研修を実施するとともに、希望する外部研修にも参加することができ、職員のスキルアップにも努めている。加えて、施設長等は、話しやすい雰囲気づくりにも努めていることもあり、職員同士で相談もしやすく、良好な関係が築かれている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スキルアップできるように働きかけ助言している。	△	△	△	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者や管理者が定期的に職員一人ひとりの評価を行い給与や賞与などの検討をしている。	△	△	△	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	代表者は交流がとれていない。また、コロナにより交流できていない。	△	△	△	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	話を聞いてもらえる環境があり、ストレス軽減になっている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	△	施設内研修で資料を参考に研修を行い、不適切なケアや虐待の理解に努めし、ミーティングで話し合い、正しい対応が出来るよう取り組んでいるが十分ではないと思う。	△	△	○	職員は内部研修で虐待防止などを学んでいる。また、ミーティング等を活用して、どのような行為が虐待や不適切なケアに該当するかを繰り返し伝えるとともに、職員は日々のケアを確認しながら、振り返りを行っている。さらに、不適切な行為が見られた場合には、職員同士でお互いに声をかけ合うほか、施設長等にも報告を行い、該当職員には注意喚起を行い、再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	月1回のミーティングで、日々のケアについて振り返り話し合っている。	△	△	△	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員からの報告や個々に話したりし疲労やストレス解消に努めている。	△	△	△	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	施設内研修で資料を参考に研修を行い、出来るだけ全職員が学び理解できるように努めている。	△	△	△	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティングで日々のケアについて、また利用者の状態を確認しながら話し合っている。	△	△	△	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	弊害や取組について説明し、代替になる工夫を説明して理解が得られるようにしている。	△	△	△	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	相談があればその都度、情報提供や相談支援できる体制はあるが、研修は出来ていない為理解は不十分。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	個々の利用者の状況に応じて、必要な支援に努めている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しているがあまり見る機会がないため、内部研修やミーティングで発生時の対応など再認識するように努めている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	日々のケアの中で実践しながら身につけるようにしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット記入も行き職員間で情報共有して、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハットや日々の申し送りなどミーティングで状態を確認しながら事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルがあり、苦情があればその都度、担当者に報告し早期に対応できるようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情があれば早期に報告し、対応を検討し対応するようにしている。市に報告する事例はない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対しては、早期に対応回答すると共に納得を得ながら次の支援につなげるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	現在、施設内には入れないため、機会は少ないが電話対応などで意見を聞いたり、プラン更新時に家族から意見を聞くようにしている。	○		○	日々の関わりの中で、職員は利用者から意見を聞くほか、利用者とは1対1となった場面を活用して、意識して意見や要望を引き出すよう努めている。また、運営推進会議の中で、職員はしたいことや困りごとを聞くなど、利用者の話しやすい状況で、意見や要望の聞き取りをしている。家族には、毎月の電話連絡時に要望を聞いている。さらに、施設長は職員と一緒に利用者のケアにあたっており、日頃から職員の意見を聞くとともに、出された意見を利用者本位の支援に繋げられるよう努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時には行っているがそれ以降は行っていない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表は来棟時にたまにだが意見を聞かれることがあり、その際に話す機会があるが少ない。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員と話す機会が多く意見や要望を話す機会がある。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回自己評価を行い、取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、ユニット毎に作成をしている。サービスの評価結果は、ミーティングを活用して、職員へ周知するとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。コロナ禍において、外部の参加メンバーの参加した運営推進会議の開催ができていないため、サービスの評価結果は報告できていない。利用者や職員のための会議開催や書面開催においても、今回の評価結果が報告できるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。さらに、コロナ禍の収束後には、家族や参加メンバーに、外部評価の目的やサービスの評価結果を説明するとともに、目標達成に取り組んでいく内容を伝えた上で、取組み状況のモニターへの協力を呼びかけて、意見や助言をもらい、サービスの質の向上に繋げられることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	ミーティングで結果報告を行い、話し合う機会を持ち、目標に向けて取り組んでいるがコロナ感染予防も不十分。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価の結果報告はユニット職員にはしているが、会議のメンバーや家族には報告やモニターはしてもらっていない。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	目標達成の取り組みはしているが成果の確認はできていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルは作成済みだが、災害想定の実施は出来ておらず周知は出来ていない。	/	/	/	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍において、消防署の協力や他の施設等の参加は自粛しているため、職員のための訓練となっている。また、市行政から、事業所は福祉避難所に指定され、食料などの備蓄品を用意している。今後は、全ての職員が災害発生時にも落ち着いて対応できるように、様々な災害を想定して、迅速に安心安全な対応が取れるように繰り返して訓練を行うなど、課題を見つめながら、改善していきけることを期待したい。さらに、コロナ禍において、集合形式の運営推進会議の開催ができておらず、地域住民と話し合う機会がないため、協力依頼できそうな民生委員や地域住民と連携を図りながら、少しずつ地域との協力体制が築けることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回は避難訓練を実施しており、1回は日中、もう1回は夜間想定で訓練している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に避難経路の確認や非常食の点検は行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	地域住民や近隣の他事業所との連携体制はない。消防署も現在コロナ感染予防の為、訓練の参加も断られている。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	機会があれば災害時の研修には参加したいと思う。地域のネットワーク作りは出来ていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	現在、取り組みは出来ていない。今後は取り組んでいきたい。	/	/	/	地域の高齢者から相談が寄せられた場合には、法人の居宅介護支援事業所と協力をしながら、適切な相談対応をしている。また、施設長は、「地域との繋がりを増やして、地域住民が気軽に相談に来訪できるような事業所を目指していきたい」などの思いがあり、コロナ禍以前に考えていた認知症カフェの開催を市行政や他の事業所と連携を図りながら、コロナ禍の収束後に開催できるように検討したり、気軽に参加できるイベントで、広報啓発や相談する機会を設けたりするなど、職員間で検討することを期待したい。さらに、市行政や地域包括支援センター等が主催する研修や会議に参加する機会は減っているものの、継続した連携が図れるよう努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	実際の相談はないが、相談があれば支援体制はある。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ感染予防もあり、現在全くできていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在受け入れはない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	機会があれば参加はしたいと思うが、連携はとれていない。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 7 月 12 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	5名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873300291
事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	やまぶき
記入者(管理者)	
氏名	古川真奈美
自己評価作成日	令和 4 年 6 月 30 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1 私たちは優しい介護の提供を目指します。                  2 温かい家庭的な安心できる環境づくりをいたします。                  3 常にご利用者の立場になることを忘れません。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①一人ひとりの尊厳を大切にしながら日々のケアの支援が出来るように取り組む                  ②家族様の参加が増えるような行事に取り組み交流が増えるようにする</p> <p>【結果】</p> <p>①月1回のミーティング時に研修を行ったり、話し合いながら日々のケアが出来ている                  ②コロナウイルス感染予防対策があり、面会禁止や行事回数が減ったこともあり施設内だけで行っており未達成。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>平屋建ての事業所は、幹線道路の近くにある母体医院に隣接して、立地している。敷地内の中庭には緑の木々も多く植えられ、夏にはツバメが飛び交うなど、利用者は自由に中庭に出て、季節を感じる事ができる。コロナ禍において、事業所には面会制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、対応を調整しており、個室での面会を可能としている時期もあり、利用者や家族に喜ばれている。また、職員は利用者の希望を聞きながら、各ユニットで身体を動かすレクリエーションを取り入れるなど、日々利用者を楽しみのある生活が送れるよう支援している。さらに、個別の生活機能向上計画書を作成して、作業療法士の助言や評価をもとに、日常生活動作の中に歩行訓練などのリハビリを取り入れたり、脳トレに取り組んだりするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。加えて、事業所では、利用者に洗濯物干しやたみ、掃除などの役割を担ってもらうとともに、職員は意識しながら、継続して利用者の人権や尊厳を大切に支援に努めている。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人が話しやすいように場所を考えて話を聞くようにしている。	○	△	○	入居前に、職員は家族や利用者から、思いや暮らし方の希望などを聞いている。また、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を知ることが多く、アセスメントシートや毎日の記録に記載している。さらに、自分で意思を伝えることが難しい利用者には、職員が声かけを工夫するとともに、表情やしぐさから思いを汲み取るようにしている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	申し送りや何か気づいた時は職員間で話し合うよう努めている。	△	△	△			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	電話や来棟時に家族に本人の状態を伝え話し合うようにしている。	△	△	△			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	観察記録に記載するようにし、整理・情報共有するよう努めている。	△	△	△			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の生活の中で機会があるごとに本人の思いを出来る限り聞くように努めている。	△	△	△			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	利用開始時や家族の面会時に話す機会を持ち、家族から聞き取りを行っている。	△	△	○	入居時に、フェイスシートやアセスメントシートを活用して、職員は利用者や家族から、生活歴や性格、これまでの暮らし、現状などを聞いている。また、入居前に利用している介護サービス事業所や居宅介護支援事業所等の関係者から、情報収集をしている。さらに、入居後、日々の関わりの中で、職員は新たな情報を知ることが多く、把握した内容はアセスメントシート等に記録して、職員間の情報共有に努めている。加えて、6か月に1回、介護計画の更新に合わせて、アセスメントシートの情報を更新している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	観察記録に記入して、情報共有し現状把握に努めている。	△	△	△			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	24時間シートの観察記録や申し送りノートを活用し、把握に努めている。	△	△	△			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	他の職種も交え、話し合う機会を持っている。	△	△	○	把握した情報をもとに、「利用者にとって必要なサービスは何か」などを、計画作成担当者や職員、家族、医療関係者等を交えて、利用者の視点に立って、話し合いをしている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	担当職員による毎月のモニタリングを行い、ミーティングで課題を話し合うようにしている。	△	△	△			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	アセスメントを基に職員間で話し合っており、作成している。	△	△	○	コロナ禍において、外部の関係者の参加した担当者会議等が開催できないため、事前に職員は利用者や家族から、思いや意向などを聞くほか、書面で確認をしている。また、医師やリハビリ担当者から、意見や指示をもらっている。さらに、把握した情報と、事前に聞いた意見等を踏まえて、月1回実施するミーティングを活用して職員間で話し合い、計画作成担当者を中心に、介護計画を作成している。加えて、利用者や家族から出された意見が反映された介護計画となるよう努めている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人や家族の意向を聞き、反映できるよう努めている。	△	△	△			
c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	現在の本人の状態にあった過ごし方になっている。	△	△	△			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族協力が盛り込まれたプランもある。	△	△	△			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	担当者がモニタリングを行い、ミーティングでプランの内容を振り返り、把握共有している。	/	/	◎	事業所では、ミーティングを活用して介護計画の内容を話し合うとともに、日々の支援経過記録の様式に、介護計画の内容が転記され、職員は計画やサービス内容を確認しながら、計画に沿ったサービスの実施記録を分かりやすく記載できるようになっている。また、月1回担当職員が、経過記録のサービスの実施の有無等を確認して、利用者の現状を確認している。さらに、サービス提供による利用者一人ひとりの状態の変化を数値化して評価するとともに、詳細な評価結果を記録に残すなど、職員はサービス内容を理解して、計画に沿ったケアが実践されている様子を確認することができた。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	プランに沿って実践できたかは記録やモニタリングで状況を把握し話し合い、支援に繋げている。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	プランの期間や状態の変化に応じて見直ししている。	/	/	◎	介護計画は、短期目標等に合わせて、6か月に1回を基本として、見直しをしている。月1回実施するミーティングを活用して、担当職員がモニタリングを実施して、利用者一人ひとりの現状を確認するとともに、必要に応じて、職員間で話し合いをしている。また、利用者の状態に変化が見られた場合には、随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ミーティングで月1回は職員間で報告し合い、現状把握するようにしている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化に応じてその都度、プランを見直しているが見直しの話し合いは出来ない。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月に1回はミーティングを行い、職員間で話し合うようにしている。	/	/	○	各ユニットで、毎日の申し送りを実施するほか、月1回ミーティングを開催して、職員間で情報共有や課題などの話し合いをしている。また、緊急案件のある場合には、内容によりその場にいる職員で話し合い、迅速な対応に努めている。さらに、参加できなかった職員には、後日ミーティングノートなどの会議録を確認してもらい、ユニットの全ての職員が情報共有できるよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	1人1人の意見を聞くようにし、具体的な質問で個別の意見を発言しやすいようにしている。	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	日中に時間を調整し、予定も立てやすいよう月初めに調整している。参加できなかった時は記録で各自確認するようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートも活用するが出来るだけ口頭で確実に申し送りできるよう努めている。	○	/	○	日々の朝夕の申し送りを口頭で実施している。また、職員は出勤時に申し送りノート等を確認し、確認後にはサインを残して、確実な情報共有に努めている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	出来るだけ個別に話す機会を持つようにして、したいことを聞くよう心掛けている。	/	/	/	日々のレクリエーションの内容や食べたいおやつなど、職員は利用者から希望を聞くとともに、意識した声かけをして、自己決定してもらえよう努めている。時には、利用者から出されたリクエスト等に応じて、職員と一緒に、おはぎや寒天ゼリー、お好み焼きなどを手づくりすることもあり、利用者には喜ばれている。また、事業所便りには、中庭で草花の手入れを楽しんだり、中庭を眺めながら、ウッドデッキでカレーを食べたりする利用者の様子を確保することができるなど、職員は利用者の楽しみや活き活きとした表情を引き出す支援に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できるように個別に対応した声掛けを行っている。	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者の生活のペースに合わせて、個別の支援に努めている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	個々の利用者の状態に合わせて声掛けを行い、レクなど行っている。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	表情から気持ちを読み取るように努め、本人の意向にできるだけ沿った支援を心掛けている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	△	接遇の研修を内部で行ったり、振り返りはミーティングで行っていないながら、声掛けの仕方や態度に気を付けてはいるがまだまだ不十分。	○	○	○	年度当初に、事業所では接遇などの内部研修を実施して、職員は利用者の尊厳や人権を尊重した対応を学んでいる。対応には、職員により個人差が見られるものの、常に施設長等は利用者への対応に満足することなく、ミーティングで話し合うほか、ケアや対応の振り返りを重ねるなど、研鑽に努めている。また、新入職員が入った際には、職員間で意識した声かけを行うなど、より良い緊張感が生まれ、サービスの質の向上にも繋がっている。さらに、居室への入室時には、利用者の状況に応じて、ノックや声かけなどをして入室するとともに、利用者が不快に思わないような配慮をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	配慮するよう努めてはいるが、不十分な場面が見られる。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	掃除時や洗濯物をしまう時は声掛け出来ているが、訪室時のノックは出来ない。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に誓約書を書いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	個々の能力に応じてお手伝いなどの場を提供し、感謝の言葉を伝えるようにしている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を把握して、トラブルにならないように見守りや配慮などの考慮をしている。また、言い合いなどのトラブルが発生した場合には、早期に職員が間に入るなどの対応をしている。さらに、食事などの際に、他の利用者の世話をしたり、レクリエーション時に、号令や声かけなどのリーダーシップを発揮したりする利用者もおり、職員は利用者同士の助け合いや支え合いを見守っている。加えて、各ユニットには男性利用者が少なく、ペースを大切にしながら孤立しないように、職員は心がけて声かけをするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	現在の利用者は労わりあいながら、暮らしていると思う。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者間の関係性を把握し、トラブルを防ぎながら個々の役割を持って生活してもらうことで孤立した方が出ないように心掛けている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必要時には職員がさりげなく介入している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	×	家族関係以外の把握は出来ていない。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナウイルス感染予防の為、外出禁止となっており、出来ていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルス予防対策で外出禁止となっている。お天気の良い日は中庭を散歩したり、日光浴している。	△	×	○	コロナ禍以前は、日常的にスーパーへ食材の買い出しに行ったり、外出行事で季節の花を見に出かけたり、外食に出かけるなどの外出支援ができていた。現在のコロナ禍において、外出制限が設けられており、事業所では中庭に出て、外の空気に触れたり、季節を肌で感じてもらうたりすることを大切に支援に努めている。また、希望をする利用者は、職員と一緒に散歩に出かけたり、中庭の思い思いの場所で過ごしてもらったり、一緒に歌を歌うなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう努めている。さらに、重度の利用者にも、屋外に出て、外気浴をしてもらうなど、気持ち良く過ごせるような支援にも努めている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナウイルス感染予防の為、外出禁止となっており、出来ていない。外出は病院受診のみ。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症についてはミーティングでは話し合い、理解を深め、個別の対応について具体的に話し合っている。	/	/	/	事業所では、利用者一人ひとりのできることやできそうなことの詳細なアセスメントを行うとともに、自分でできることはしてもらい、職員は手や口を出しすぎないような見守りや、できない部分のサポートをしている。また、個別の生活機能向上計画書を作成して、作業療法士の助言や評価をもとに、日常生活動作の中にリハビリを取り入れたり、脳トレをしたりするなど、利用者の心身機能の維持に努めている。さらに、訪問調査日には、中庭から廊下で歩行訓練をする利用者の様子を見ることができた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	状態の違いもあり、全員は出来ていない。状態の把握はしているが、維持向上についての取り組みは十分ではない。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事はして頂き、出来ない事は一緒にしている。	/	○	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	全員ではないが、利用者個々の状態に応じて役割を考え、提供している。	/	/	/	洗濯物干しやたみ、掃除など、日常的に事業所では、利用者の得意なことを活かした役割を担ってもらえるような支援に努めている。また、事業所便りには、中庭の芝生に座って草引きをする利用者の様子が見られ、車いすを使用している。継続して生き生きと自分の好きなことをしながら、生活が送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	出来る限り能力に応じた役割を持って頂いているが、出来ない方についてはあまり取り組めていない。	○	○	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人の好みやその人らしさを把握できない利用者が多い。				食べこぼしの汚れや整容の乱れが見られた場合には、職員が利用者の羞恥心やプライドを傷つけないように、さりげなくフォローしたり、居室に移動して着替えてもらったりするなどの配慮をしている。また、起床時には、着る服を自分で選び、お気に入りの髪型に整容するなど、好きなおしゃれを楽しんでいる利用者もいる。さらに、状態に応じて、日中にベッド上で過ごすことが多い利用者があるものの、日中にはパジャマから普段着に着替えてもらうなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるよう支援している。	△	自分でできる方はされているが認知が進んでいて、好みで把握出来にくい利用者が多い。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	個々の状態に応じて出来る範囲はしてもらっている。自己決定しにくい利用者は職員間で話し合って対応している。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	持ち物や衣服の趣味等によりおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげない声掛けで支援するようにしている。		◎	◎		○
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	コロナウイルス感染予防の為、外出できていない。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	本人らしい色や好みを家族に聞き取り入れるようにしている。					○
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	メニューなどを伝え食べたいという意欲に繋がるよう支援している。				法人の栄養士が、旬の食材を取り入れながら、栄養バランスの取れた献立を作成している。食材は、業者に配達してもらい、利用者にもやしの根っこ取りなどの調理のしたごしらえや食器洗いなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。利用者一人ひとりの好き嫌いやアレルギーの有無などは、アセスメントシートに記録して、職員間で共有するとともに、苦手な食材等のある場合は、代替品などを用意している。利用者のリクエストを取り入れて、おはぎや寒天ゼリーなどのおやつを、職員と一緒に手作りするところもある。食器類は、使い慣れた物のほか、状態に合った使いやすい物を使用している。コロナ禍以前は、食事の際に、利用者と一緒に同じ食事を摂ることができていたものの、コロナ禍において、職員はフェイスシールドとマスクをしながら、見守りや食事介助をするとともに、各自が用意して、別々に食事をしていく。また、全ての利用者はリビングで食事をしており、調理の匂いや音を感じることができる。さらに、利用者の状態や医師の指示に応じて、とろみなどの食の形態にも対応している。加えて、食事内容や利用者の嚥下状態が気になる場合には、ミーティング等を活用して職員間で話し合うとともに、医師に相談して、アドバイスや指示をもらうことができていく。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	後片付けについては出来る方に手伝ってもらっている。簡単な調理は本人の状態に応じてたまにしている。					○
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	出来る事を状態を見てもらっているが、毎日は難しい。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時に家族から聞き取りし、情報収集に努めている。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音つかしいもの等を取り入れている。	○	行事食や季節のメニューもあり、地域特有のメニューも取り入れている。					◎
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	個々の状態に合った食形態にしている。状態が変化することに状態に応じて変えている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家で使用していた物を持ってきてもらっており、状態に応じて介護用のスプーンなど使用している。					○
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べてはいないが介助や見守りにてさりげなくサポートできるように努めている。					○
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	メニューを伝えたり、皆で一緒に会話しながら食べる事で楽しい雰囲気作りを努め、食事介助が必要な方には食事内容など具体的に説明しながら、何を食べているか本人が分かるように支援している。			○		○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	配膳する量やカロリーは同じだが、水分は目標を設定し摂取できるよう内容やタイミングなど工夫しながら対応している。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事の時間をずらしたり、飲み物を他の物に変えたりして取り組んでいる。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	栄養士が立てる献立はカロリーやバランスを考慮しており、食材や調味料まで分量が記載してあるのでその分量通りに作っている。					○
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材はメニューに沿ってほぼ毎日届けられ、食器類は毎日消毒を徹底している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	必要性や重要性は理解し、毎食後の口腔ケアに努めている。	/	/	/	歯科医にアドバイスをもらうなど、職員は口腔ケアの重要性を理解している。また、壁には早言葉や歌詞を貼り、食事前には、口腔ケア体操を実施している。毎食後、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、必要に応じて、職員が介助や磨き残しなどのサポートをしている。中には、居室の洗面台で、自分で歯磨きをしている利用者もいるため、毎食後に全ての利用者の口腔内の状況までは確認することができていない。さらに、自分で歯磨きのできる利用者には、週1回確認する日を決めて、口腔内の状況を確認するなど、定期的に全ての利用者の口腔内の様子を確認できることを期待したい。異常が見られた場合には、早期に訪問歯科の治療に繋げている。加えて、月1回歯科医の訪問診療があり、新たな利用者や気になる利用者の検診等を実施している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自分でできる方は見守りと確認、出来ない方は介助時に確認するようにしている。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	月1回は歯科医の訪問を受け、ケアの仕方を相談している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	自分で出来る方は適切に出来るよう見守りしている。出来ない方は職員管理を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後に声掛け誘導を行い、清潔を保てるよう支援している。異常があれば月1回の訪問歯科で見てもらって、必要があれば家族に連絡し歯科受診してもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	布パンツの方も紙パンツやおむつを使用している方も定期的に声掛けや誘導を行い、トイレに座って排泄できるようにしている。	/	/	/	事業所には、立位等が取れないため、おむつを使用している利用者があるものの、トイレでの排泄支援を基本として、排泄チェック表で把握した利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせて、声掛けやトイレ誘導などの支援をしている。中には、頻尿で、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。また、ミーティング時やモニタリング時を活用して、パッドなどの使用状況を職員間で話し合うとともに、排泄用品の使用時には、家族に確認をしたうえで使用をしている。さらに、入院時におむつを使用していた利用者が、退院して事業所に戻り、職員が声かけやトイレ誘導をすることにより、紙パンツや布パンツに変更することのできた利用者もいる。加えて、職員は、利用者の状態に応じて、パッドの枚数を減らしたり、布パンツの使用を検討したりするなど、家族の負担を考慮して、利用者の力を引き出しながら、パッドや紙パンツなどの排泄用品に頼りすぎない支援にも取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	職員間で話し合い、理解に努めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表に記録し、把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ミーティングで職員全員で話し合い、状態に応じた見直しを検討している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分補給や入浴時の腹部マッサージなど取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	記録を基にパターンを把握したり、行動開始のタイミングで声掛け誘導するようにしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人の羞恥心を重視し、家族に相談はしているが本人とは話し合いはできていない。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	1人1人の状態に合わせて使い分けをしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	冷たい牛乳や水分を多くとってもらえるよう内容も個人の好みに応じて工夫している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人の希望に添えるよう時間帯など工夫して対応している。	◎	/	○	利用者は、週3回程度入浴することができる。現在は、毎日や夕方入浴を希望する利用者はいないものの、施設長等は、「毎日の入浴を希望する利用者がいれば、状況により、できる限り柔軟な対応をしたい」と考えている。また、事業所では、利用者毎に曜日や時間帯を決めずに、希望や習慣、身体状況に合わせた入浴支援に努めている。さらに、職員は利用者毎に、午前や午後入浴時間を確認するとともに、入浴希望のない場合にも、日を替えて声かけをするなど、入浴をしてもらうことができています。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	本人のペースで入浴して頂けるよう心掛けている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人が出来る範囲を把握し、出来る事はしてもらながら入浴してもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒否がある時は個別で話を聞いたり、時間を空けて再度声掛けを行うようにしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルを測定し、日中の状態も確認をおこない、入浴後は水分補給を行い、変化がないかを確認している。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録し、申し送りや日中の様子も含め、状態を把握するようにしている。	/	/	/	事業所には、入居前から眠剤などを継続して服薬している利用者があるほか、体調面を考えて、入居後に服薬を開始した利用者もいる。また、主治医の方針もあり、職員は服薬に頼りすぎない支援に努めており、日中の過ごし方を工夫するほか、医師に服薬の開始や終了、薬剤の使用量などを随時報告して、指示をもらっている。さらに、現在は服薬のコントロールなどもあり、夜間には、全ての利用者が安眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やす声掛けしたり、レクや日光浴などでリズムを整えるように工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の眠気の強い方は主治医に日々の状態を報告し、処方相談し、指示に従っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	家庭で過ごすのと同じように休息をとってもらえるように、本人に聞き取りしながら対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族から電話があった時やこちらからかけた時に本人と話してもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	字の練習をしてかけた方のお手紙は毎月の現況報告と一緒にご家族に送っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	希望があればいつでも掛けられるようにしているがかけられたりすることがない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人が書ける方には書いてもらい、書けない場合は職員が代わりに返信するようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族の理解や協力は得られている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解していると思うが、職員管理の為本人にとっての意味や大切さについては十分とは言えない。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナウイルス感染予防の為、来ていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	コロナウイルス感染予防の為、来ていない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	契約時に使い道を相談している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族の同意で預かり金を管理しており、金庫の鍵は管理者が管理し、入出金の際は管理簿に記入し残金はWチェックを行っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	必要に応じて出来るだけ本人や家族の意向に沿えるようにその都度話し合いながら取り組んでいる。	◎	/	○	コロナ禍以前は、利用者や家族の要望に合わせて、外出や外泊などに対応することができていた。コロナ禍において、面会制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、対応を調整しており、個室での面会にも対応している。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	×	幹線道路沿いのため、安全面を考慮し、外玄関には常に施錠させて頂いている。	○	○	○	母体医院の横に、敷地の広い事業所は隣接している。外部から、門扉や外塀、緑茂る大きな木などが見られるほか、近隣のアパートや住宅に馴染んだ建物となっている。また、門扉横の塀には、一軒家風の表札と菜の花の図柄が施されている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に季節向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	生花を飾ったり、壁面に季節の飾りをして、家庭的で心地よい環境作りをしている。	○	○	○	3ユニットの事業所は、それぞれのユニットの間取りやキッチンなどの仕様が異なった構造となっている。コロナ禍の感染対策において、訪問調査日には事務所横の個室で、写真で事業所内の様子を確認することとなり、中庭を囲むように建つ平屋の3ユニットの建物が見られたほか、リビングの天井も高く、開放的となっている。また、中庭の中央付近には、シンボルツリー的な大きなさくらんぼの木が植えられるなど、利用者や来訪者は四季折々の様子を見ることができる。さらに、中庭は第2のリビングのようになっており、利用者は気軽に出入りすることができる。加えて、和室に掘りごたつが設置されているユニットもある。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の清掃と日々の定期的な換気で清潔な環境に努めている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	花の香りや調理の匂いなどまじかて感じられる空間になっている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	フロアにはソファもあり、くつろげる場所の確保と配置換えなど工夫している。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅から使い慣れたタンスや椅子など持参してもらっている。	○	/	○	居室には、洗面台やベッド、エアコン、整理ダンスが備え付けられている。また、使い慣れた物のほか、仏壇などの希望する物を持ち込むことができる。さらに、好きな俳優のポスターを貼るなど、落ち着いて過ごせるような空間づくりの支援に努めている。中には、2つの部屋の中にある引き戸で、自由に行き来できる居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや居室の表示やフロア内の手すり設置、車椅子自走の出来る環境作りなど工夫している。	/	/	/	○ 居室やトイレを分かりやすく表示しているほか、目の不自由な利用者にも、居室からリビングまで、移動しやすいように動線を工夫するなど、利用者自身の能力を活かしながら、自立した生活が送れるような支援に努めている。また、事業所では、ユニット毎の利用者の状態に適した場所に、日常的に使用する掃除道具や雑貨類などを収納方法を代えて配置し、いつでも手に取りやすいようにしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌や新聞・地方紙などフロア内のテーブルやいつでも手の届くところに置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	△	職員は理解しており、外玄関は施錠しているがユニットの玄関は日中はいつでも開いており、利用者は自由に入出入りしている。但し、門扉は施錠しており、施設外には出られないため、利用者にとっての弊害は0ではないと思うが、工夫はされていない。	×	◎	△	職員は内部研修等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。事業所は道路に面し、幹線道路から近いこともあり、利用者の安全面や防犯面を考慮して、門扉や玄関の施錠を行い、来訪者にはインターホンで対応をしている。日中には、ユニットの入り口等は開放して、自由に中庭に出られるようになっている。また、帰宅や外出の願望のある利用者には、職員が寄り添いながら、レクリエーションを実施したり、話を聞いたりするなど、その都度納得してもらい、落ち着いてもらえるような支援に努めている。さらに、過去には、事業所内で検討を行い、門扉の解放を試みたことがあるものの、職員は利用者の見守りに重点を置き、通常業務が疎かになる場面が見られたため、施錠した現状の状態で、現在に至っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	自由な暮らしの理解はしているが安全上、施錠については家族に説明し、理解を得ている。うちげんかっは施錠していないが外に繋がる門や裏口は施錠しており、鍵をかけない取り組みはしていない。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に聞き取りした情報をまとめたものを個人ファイルに挟みいつでも見れるようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル、水分、食事量、排泄、睡眠状態を記録し、変化は申し送りに記載して早期発見に努めている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療機関とは常に連携をとっており、個々の利用者の変化を報告し、常に情報交換を行い適切な早期対応に努めている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、家族の意向を聞き受診してもらっている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	主治医と連携をとっており、いつでも適切な医療を受けられる環境が出来ている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後、必ず家族に連絡報告し、申し送りで職員間でも情報共有出来るようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報をまとめたものを作成して渡しているが、間に合わない事もある。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	ケアマネジャーが定期的に病院と連携を取り、また訪問して状態確認を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力医療機関の看護師との連携はとれており、相談しやすい環境になっている。主治医にも相談できる環境にある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間体制で連絡でき、対応可能な体制が整っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定や健康状態を確認し、小さな変化も報告するようになっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬情報はいつでも確認できる場所においてあり、理解したうえで処方士の仕分けも行っている。異常があれば主治医に報告し、指示を仰ぎ、家族にも連絡している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬棚から出すのは一人で行うが、内服着前に名前・日付など2人で確認するようになっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	変化がある時には必ず医療機関に連絡報告し、指示を仰ぐようになっている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時には必ず主治医の診察を受け、家族の意向を確認し、状況変化があった時も主治医から説明があり、家族の意向を再度確認している。				事業所には、「重度化対応・終末期ケア対応指針」があり、入居時に家族等に説明して、意向を確認している。また、利用者や家族の希望に応じて、看護師との24時間の連絡体制や、母体病院等との連携を図ることができており、事業所内で看取り支援を実施することは可能となっているものの、急変時や終末期には、病院や他の施設へ転院する利用者も多く、これまで事業所での看取り支援には至っていない。さらに、利用者の状態の変化が見られた場合には、その都度、医師や看護師と連携を図るとともに、家族や関係者を交えて話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	必要に応じて医師や看護師に相談し、本人家族にとってどうしたらよいか検討しながら方針を共有するようになっている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	力量については把握しており、思いは聞いてもらって支援について方針を検討するようになっている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医療と連携し、主治医に確認をとりながら、対応可能なことは伝えるようにして家族の理解を得たうえで対応するようになっている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関と密に連絡を取りながら、体制を整えている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	相談や機会があれば、話を聞くようになっている。職員からの声掛けや対応など十分に気を付けている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修は行っていないが、内部で研修を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練はしていないがマニュアルをいつでも見れるようになっている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	テレビや新聞、併設の病院の申し送り等で最新情報を取り入れるようになっている。また、併設の病院からの指示などにより対応している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員の出勤時の検温や手洗いを毎日行い、マスク着用にて感染予防に努めている。面会や来棟はない。利用者にはマスク着用を声掛けしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来棟時やあ電話連絡時にお話をするよう心掛けている。	/	/	/	コロナ禍以前は、納涼祭やクリスマス会などの行事に家族の参加を呼びかけて、一緒に食事を摂るなどの交流を図ることができていたものの、コロナ禍において、行事参加の呼びかけを自粛している。事業所には、面会制限が設けられているものの、感染状況を見計らいながら、対応を調整しており、個室での面会を可能としている時期もあり、利用者や家族に喜ばれている。また、2～3か月に1回、事業所便りを発行するほか、毎月担当職員が利用者の状況報告を記載した手紙を送付して、近況を伝えている。さらに、月1回は、電話連絡で家族が利用者と会話できる機会を設けるなど、家族と良好な関係が築けるよう努めている。家族は、手紙や写真などの書面等で利用者の様子を知る機会はあるものの、面会制限が設けられているため、事業所内の雰囲気や職員の顔を見る機会はほとんどないため、利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職などの事業所の出来事が家族に十分に伝わっていないことが窺えるため、事業所便りを活用して、事業所内の出来事を掲載したり、面会などの来訪時に伝えたりするなど、家族に安心してもらえるような周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	現在面会でできない為、入る事はできない。	×	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	菜の花だよりやその月の状況を記載し家族に送付している。写真も送付することがある。体調不良や主治医の指示などは注意してその都度、家族に伝えており、家族の不安については把握できるよう常に努めている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	より良い関係が維持できるよう対応に努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の報告は菜の花だよりやお手紙で報告しているが職員の異動や設備については特に報告していない。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	△	状況に応じてリスクについて、家族に伝えて対応策を話し合っている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	電話があった時やこちらからの連絡時、また来棟じなどは対応に気を付け、相談しやすい雰囲気作りに努めている。また、体調不良の報告や毎月の状況報告も行って安心してもらえるよう努めている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に書面で説明し同意を得ている。個別の質問にも応じてできるだけ理解してもらえよう努めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	状況に応じて家族の意向に沿えるような対応している。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	コロナウイルス感染予防の為、地域との交流はできていない。	/	◎	/	コロナ禍以前は、幼稚園児や小学生と交流をしたり、ボランティアを受け入れたりするなど、地域住民と交流することができていた。また、市行政から介護相談員を派遣してもらい、利用者の話しを聞いてもらうこともできていた。事業所として、地域住民の集える認知症カフェの企画を検討していたものの、その矢先にコロナ禍となり、実現には至っていない。さらに、コロナ禍において、感染対策もあり、地域住民等と交流することは自粛しており、職員が近隣住民に挨拶を交わす程度に留まっている。加えて、事業所の立地上の問題もあり、日中の人通りは少なく、地域住民と会話を交わす機会も少なくなっている。コロナ禍の収束後には、幼稚園児等との交流を再開したり、利用者と一緒に地域行事へ参加したりするなど、利用者が地域において、少しでも多くの交流が図れることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	コロナウイルス感染予防もあり、地域への働きかけはしていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	×	地域との交流はない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	地域への訪問はない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶する程度で日常的なおつきあいはない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルス感染予防の為、行事もできておらずボランティアの訪問もなく、地域との交流はできていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	具体的には地域資源の活用はできない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナウイルス感染予防で施設内には入れないため、職員と利用者のみで行っている。	○	/	○	コロナ禍以前には、併設の小規模多機能型住宅介護と合同で、運営推進会議を、利用者や地域住民の代表、会社社長、介護相談員、地域包括支援センター、市担当者の参加を得て開催していた。コロナ禍において、外部の参加は自粛してもらっているため、利用者と職員のみで会議を実施するとともに、利用者へ行事報告等をした後に、利用者からしてみたいことや困りごとなどを聞き、職員と意見交換をしている。また、議事録は市行政と家族に送付して、意見や感想を伝えてもらいやすい工夫をしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	△	施設の活動内容(行事や研修など)は報告しているが、外部評価や目標達成計画と取り組み状況については報告していない。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナウイルス感染予防で施設内には入れないため、職員と利用者のみで行っている。毎回同じ内容になってきている。	/	/	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事務所入り口や目につくところに理念を張り出してあり、実践できるよう努めている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	パンフレットに理念を載せている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画があり、スタッフの力量に応じた研修を促している。	/	/	/	医師である理事長は、往診等で頻りに事業所への来訪があり、利用者のほか、職員にも話しかけており、職員は、「日頃から気軽に声をかけてもらえる」と感じている。また、理事長夫人である事務長が、事業所に関する事務を担っており、施設長はミーティング等を活用して、職員の意見や要望を聞くとともに、物品購入などの出された意見を事務長に伝えて、必要に応じて対応してもらっている。さらに、事業所では内部研修を実施するとともに、希望する外部研修にも参加することができ、職員のスキルアップにも努めている。加えて、施設長等は、話しやすい雰囲気づくりにも努めていることもあり、職員同士で相談もしやすく、良好な関係が築かれている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スキルアップできるよう助言などしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	やりがいを感じられるような職場環境になっていると思う。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	代表者との交流は出来ておらず、交流の機会作りをした。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	取組は出来ていない。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	△	ミーティングや日々のケアの中で言葉使いや対応に気を付けるよう話し合ったり指導したりしている。	/	/	○	職員は内部研修で虐待防止などを学んでいる。また、ミーティング等を活用して、どのような行為が虐待や不適切なケアに該当するかを繰り返し伝えるとともに、職員は日々のケアを確認しながら、振り返りを行っている。さらに、不適切な行為が見られた場合には、職員同士でお互いに声をかけ合うほか、施設長等にも報告を行い、該当職員には注意喚起を行い、再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の職員同士の会話やミーティングで話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	代表者から直接の注意はないが管理者からは日常的に助言や注意がある。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内部研修を行い、職員全員が理解できるよう取り組んでいる。気になる事はミーティングで話し合うようにしている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティングや日々の会話の機会を持ち、具体的に話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設側の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在、拘束対象者は居ないが、状況の変化がある場合、その都度話し合うようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	職員により理解の度合いにバラつきがある。内部研修でも取り上げていない。今後は取り組んでいきたい。個々の相談には応じる事はできる。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要時には個別に対応し、相談に応じる体制はある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルがあり、周知できている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	併設の病院の指導により実践で身に付いている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	活用はしているが、まだまだ少なく今後も継続した取り組みが必要。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	1人1人の状態を把握しリスク管理に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情はすぐに報告し、迅速で適切な対応ができるように努めている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかな回答が出来るよう早めに報告し、改善について話し合い、前向きで良好な関係作りに努めるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	現在、施設内には入れないため、機会は少ないが電話対応などで意見を聞いたり、プラン更新時に家族から意見を聞くようにしている。	○		○	日々の関わりの中で、職員は利用者から意見を聞くほか、利用者とは1対1となった場面を活用して、意識して意見や要望を引き出すよう努めている。また、運営推進会議の中で、職員はしたいことや困りごとを聞くなど、利用者の話しやすい状況で、意見や要望の聞き取りをしている。家族には、毎月の電話連絡時に要望を聞いている。さらに、施設長は職員と一緒に利用者のケアにあたっており、日頃から職員の意見を聞くとともに、出された意見を利用者本位の支援に繋げられるよう努めている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約時には行っているがそれ以降は行っていない。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者は毎日ではないがユニットの訪問はあるが、直接話す機会はありません。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティング時に意見の提案を職員に促し、支援に繋がるように努めている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回は自己評価を行い、取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、ユニット毎に作成をしている。サービスの評価結果は、ミーティングを活用して、職員へ周知するとともに、目標達成に向けて取り組んでいる。コロナ禍において、外部の参加メンバーの参加した運営推進会議の開催ができていないため、サービスの評価結果は報告できていない。利用者や職員のみでの会議開催や書面開催においても、今回の評価結果が報告できるように、周知方法を職員間で検討することを期待したい。さらに、コロナ禍の収束後には、家族や参加メンバーに、外部評価の目的やサービスの評価結果を説明するとともに、目標達成に取り組んでいく内容を伝えた上で、取組み状況のモニターへの協力を呼びかけて、意見や助言をもらい、サービスの質の向上に繋げられることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標に向け、実践できるように取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果の報告はしている。	○	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	取組はしているが確認は出来ていない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルを作成し周知に努めているが、見る機会も少なく周知は不十分だと思う。	/	/	/	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍において、消防署の協力や他の施設等の参加は自粛しているため、職員のための訓練となっている。また、市行政から、事業所は福祉避難所に指定され、食料などの備蓄品を用意している。今後は、全ての職員が災害発生時にも落ち着いて対応できるように、様々な災害を想定して、迅速に安心安全な対応が取れるように繰り返して訓練を行うなど、課題を見つめながら、改善していけることを期待したい。さらに、コロナ禍において、集合形式の運営推進会議の開催ができておらず、地域住民と話し合う機会がないため、協力依頼できそうな民生委員や地域住民と連携を図りながら、少しずつ地域との協力体制が築けることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回は避難訓練を実施しており、1回は日中、もう1回は夜間想定で訓練している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に避難経路の確認や非常食の点検は行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	年2回の避難訓練は実施しているが消防署の参加はない。地域住民や近隣施設との連携はとれていない。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	訓練も地域のネットワーク作りも出ていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域の方への発信は出ていない。	/	/	/	地域の高齢者から相談が寄せられた場合には、法人の居宅介護支援事業所と協力をしながら、適切な相談対応をしている。また、施設長は、「地域との繋がりを増やして、地域住民が気軽に相談に来訪できるような事業所を目指していきたい」などの思いがあり、コロナ禍以前に考えていた認知症カフェの開催を市行政や他の事業所と連携を図りながら、コロナ禍の収束後に開催できるように検討したり、気軽に参加できるイベントで、広報啓発や相談する機会を設けたりするなど、職員間で検討することを期待したい。さらに、市行政や地域包括支援センター等が主催する研修や会議に参加する機会は減っているものの、継続した連携が図れるよう努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば支援する体制はある。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行事の開催もなく、活用はできていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	現在、受け入れはない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	連携も協働も出ておらず、地域のイベント参加も出ていない。	/	/	○	